

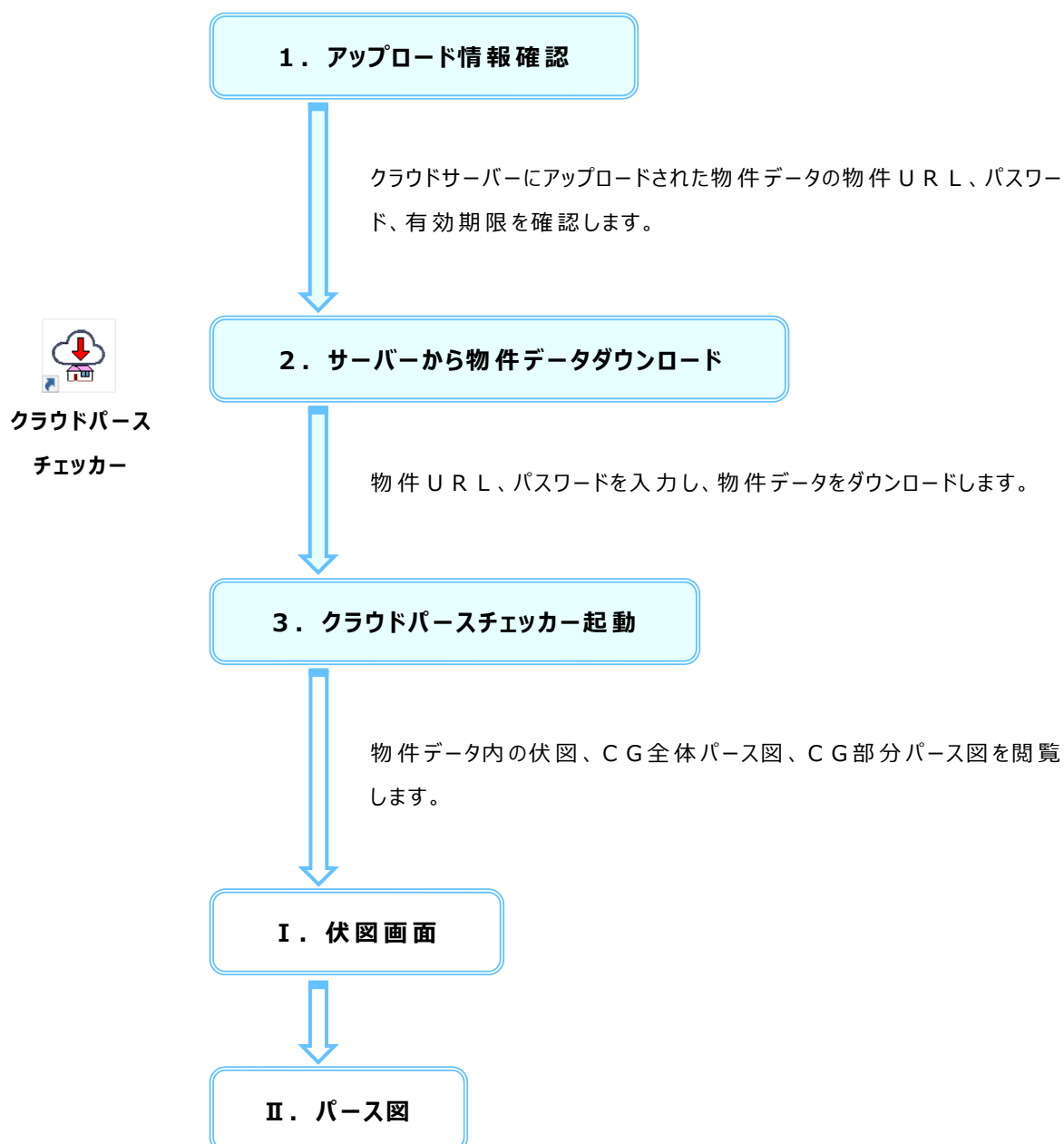
パースチェッカー 物件データダウンロード手順



「クラウドパースチェッカー」を使用して、CADの物件データ内の伏図、CG全体パース図、CG部分パース図を閲覧します。

※ 当社ホームページの「クラウドパースチェッカー 無料ダウンロード」ボタンよりクラウドパースチェッカーシステムのインストールが必要です。

【パースチェッカー物件データダウンロード手順】

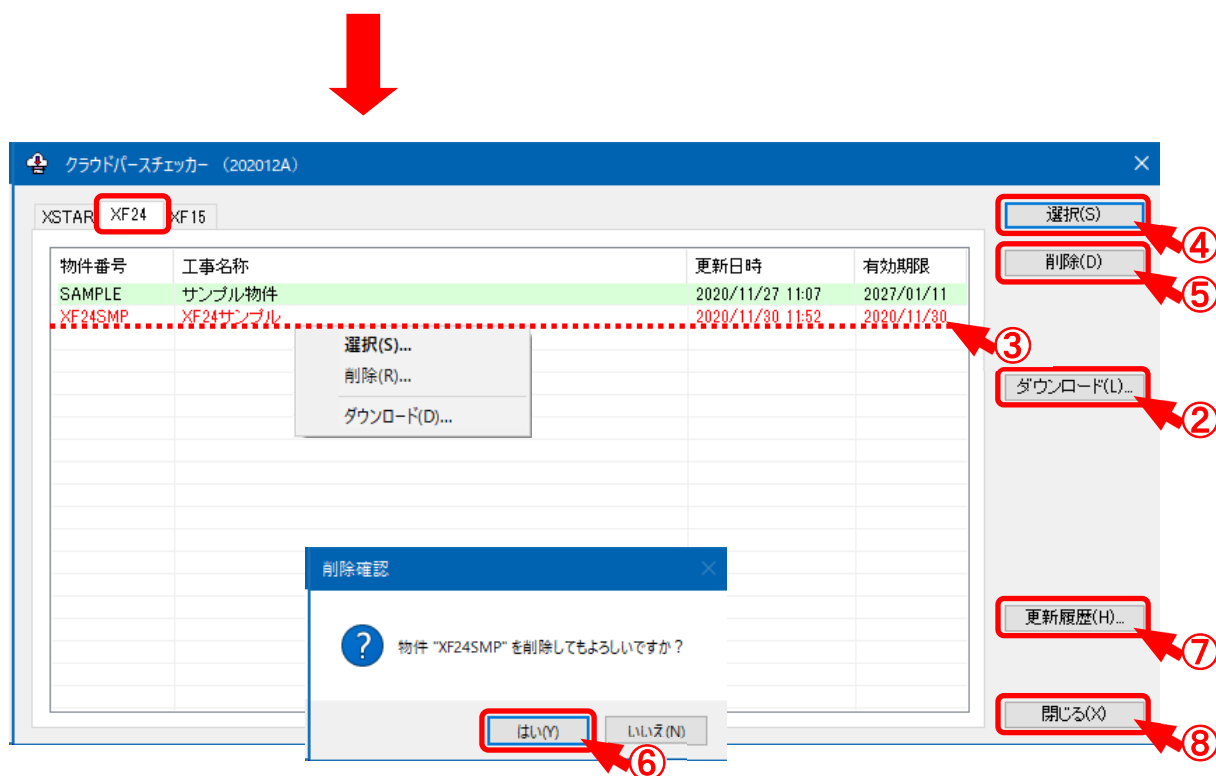


2. サーバーから物件データダウンロード

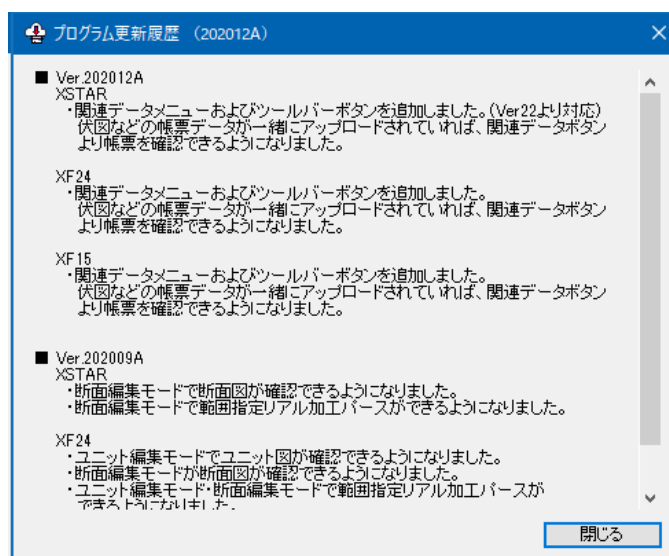
◆ クラウドサーバーから物件データをダウンロードします。



① 「クラウドパースチェッカー」のアイコンをダブルクリックします。



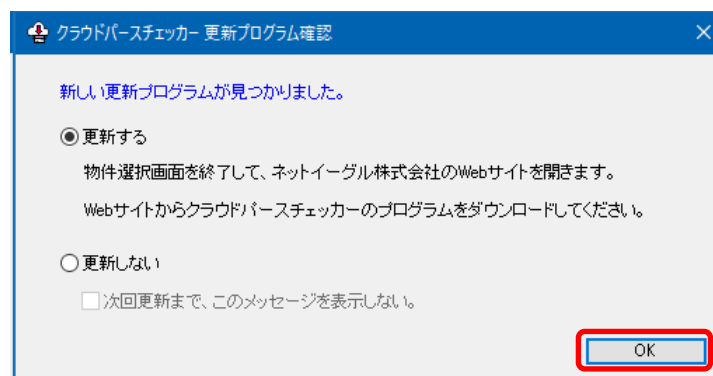
<更新履歴>



2. サーバーから物件データダウンロード

- ② 「クラウドパスチェッカー（バージョン番号）」の画面が表示されます。
「XF24」のタブを選択し、「ダウンロード」をクリックします。
※ マウスの右クリックからでも「選択」「削除」「ダウンロード」を選択できます。
- ③ 有効期限が切れた物件データは、赤色文字で表示されます。
- ④ 既にダウンロードした物件データを再度、クラウドパスチェッカーで開く場合は、物件を選択し、「選択」をクリックします。
- ⑤ 物件データが不要な場合は、物件を選択し、「削除」をクリックします。
※ C t r l キーや S h i f t キーで複数物件を選択して、削除できます。
- ⑥ ⑤で「削除」をクリックすると、「削除確認」の画面が表示されます。
「はい」をクリックし、物件を削除します。
- ⑦ 「更新履歴」をクリックすると、「プログラム更新履歴（バージョン番号）」の画面が表示されます。
クラウドパスチェッカープログラムの更新内容が確認できます。
- ⑧ 「閉じる」をクリックすると、「クラウドパスチェッカー（バージョン番号）」が終了します。

②の「ダウンロード」をクリックした際に、現在使用中のクラウドパスチェッカーより新しいプログラムが当社ホームページにアップされた場合、「クラウドパスチェッカー 更新プログラム確認」の画面が表示されます。



「更新する」または「更新しない」を選択して、「OK」をクリックします。

・更新する

当社ホームページのトップページが開きます。

クラウドパスチェッカーのページで、「クラウドパスチェッカー 無料ダウンロード」ボタンよりクラウドパスチェッカーシステムのインストールをお願いします。

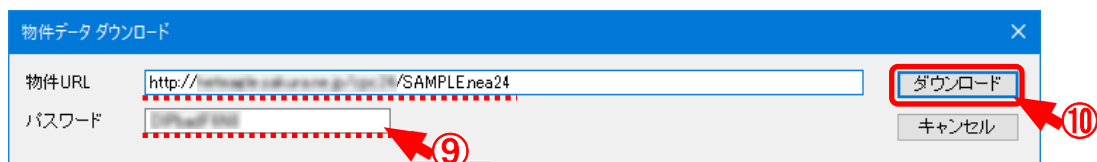
・更新しない

更新しない場合は、「物件データ ダウンロード」の画面が表示されます。

物件のダウンロードへ進みます。

「次回更新まで、このメッセージを表示しない。」にチェックをつけると、次回新しいプログラムが当社ホームページにアップされるまで、確認画面は表示されません。

2. サーバーから物件データダウンロード



⑨ ②で「ダウンロード」をクリックすると、「物件データ ダウンロード」の画面が表示されます。

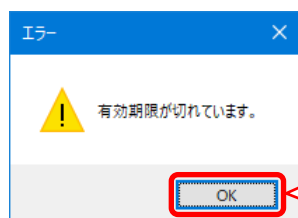
物件URL、パスワードを入力します。

※ 物件URL、パスワードは、XF24CADを使用されているプレカット工場様等が物件データをクラウドサーバーへアップロードした時に表示されます。

⑩ 「ダウンロード」をクリックします。

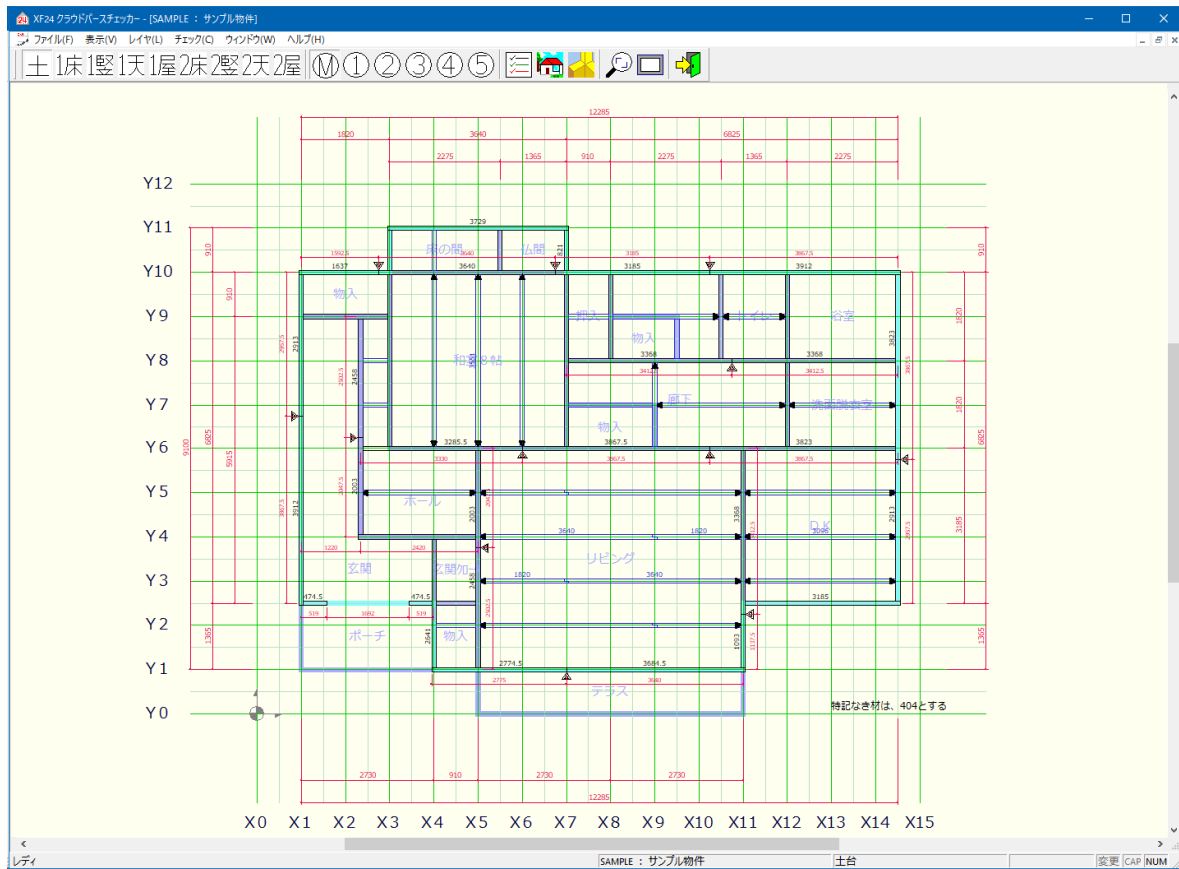
有効期限が切れた物件データをクラウドパスチェッカーで開いた時やダウンロードした時に、「エラー」の画面が表示されます。

有効期限が切れた物件データの起動やダウンロードはできません。



「OK」をクリックし、「エラー」の画面を終了します。

2. サーバーから物件データダウンロード



- ⑪ クラウドパースチェッカーが起動します。
ダウンロードした物件データの伏図が表示されます。

3. クラウドパースチェッカー起動

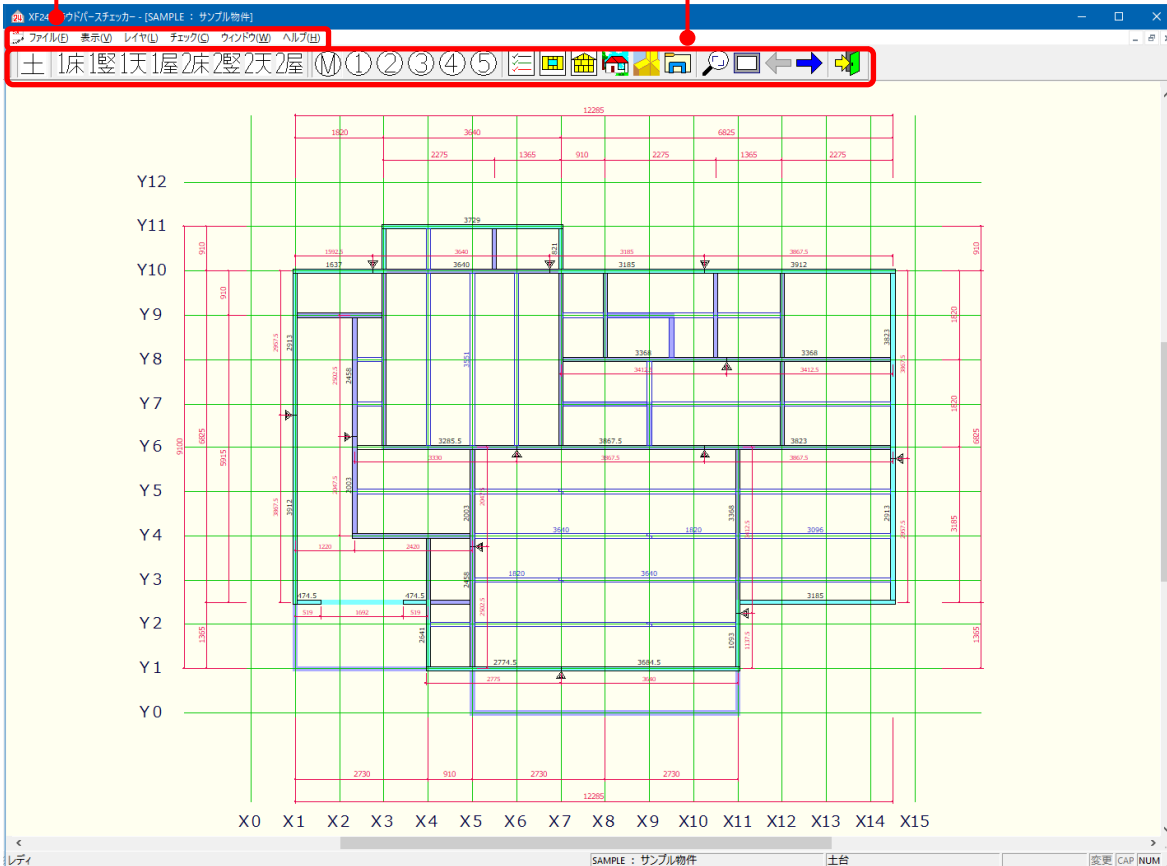
- ◆ クラウドパースチェッカーの伏図画面では、レイヤ切替、要素の表示切替、材やユニット番号の検索、材属性の検索、画面拡大、構造パース起動の操作ができます。

『メニューバー』

メインツールバーの機能、材やユニット番号の検索、材属性の検索がメニューバーから操作できます。

『ツールバー』

レイヤ切替、要素の表示切替、画面拡大、構造パース起動の操作ができます。



『ヒント』

マウスカーソルを各メニューやツールバーボタンに合わせた時に操作のヒントが表示されます。

『レイヤ』

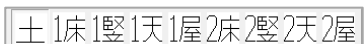
表示中のレイヤ名が表示されます。

『物件番号／邸名』

起動中の物件番号と邸名が表示されます。

3. クラウドパースチェッカー起動

『メインツールバー』



- ・土台から屋根レイヤまで切替ます。
＝〔レイヤ－土台～4階屋根〕



- ・メインレイヤからサブレイヤを切替ます。
＝〔レイヤ－メイン～サブレイヤ5〕



- ・要素表示（伏図）：伏図画面に表示する要素を設定します。
＝〔表示－要素〕



- ・ユニット編集モード：ユニット編集モードに切り替えます。
＝〔表示－ユニット編集モード〕



- ・断面編集モード：断面編集モードに切り替えます。
＝〔表示－断面編集モード〕



- ・構造パース：構造パースを起動します。
＝〔表示－構造パース〕



- ・範囲構造パース：パース図の描画範囲を指定して、構造パースを起動します。
＝〔表示－範囲構造パース〕



- ・関連データ：アップロードされたPDFなどのファイルが保存されています。
＝〔表示－関連データ〕



- ・範囲拡大：指定した範囲の画面を拡大表示します。
＝〔ウィンドウ－範囲拡大〕



- ・全体図：全体図に戻します。
＝〔ウィンドウ－全体図〕

3. クラウドパースチェッカー起動



・前のページ／次のページ：伏図画面では、表示レイヤを切り替えます。

ユニット編集モードでは、選択中のユニットからユニット番号順に順送りします。S h i f t キーを押しながらクリックすると、ユニット番号の先頭または最後のユニットが表示できます。

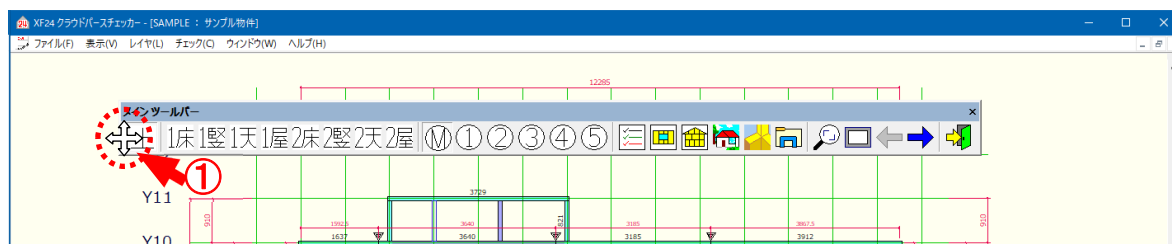
断面編集モードでは、選択中の断面図から断面切断線番号順に順送りします。S h i f t キーを押しながらクリックすると、断面切断線番号の先頭または最後の断面図が表示できます。



・アプリケーションの終了：パースチェックシステムを終了します。

=〔ファイル－アプリケーションの終了〕

<ツールバーの移動>



① メインツールバーをドラッグすると、移動できます。

※ クラウドパースチェッカー起動時は、常に初期位置に表示されます。



をクリックすると、構造パースが起動します。

構造パース起動時に「RendWin4 は動作を停止しました」のエラーが表示された場合は、以下の設定を変更し、再度構造パースの起動確認をお願い致します。

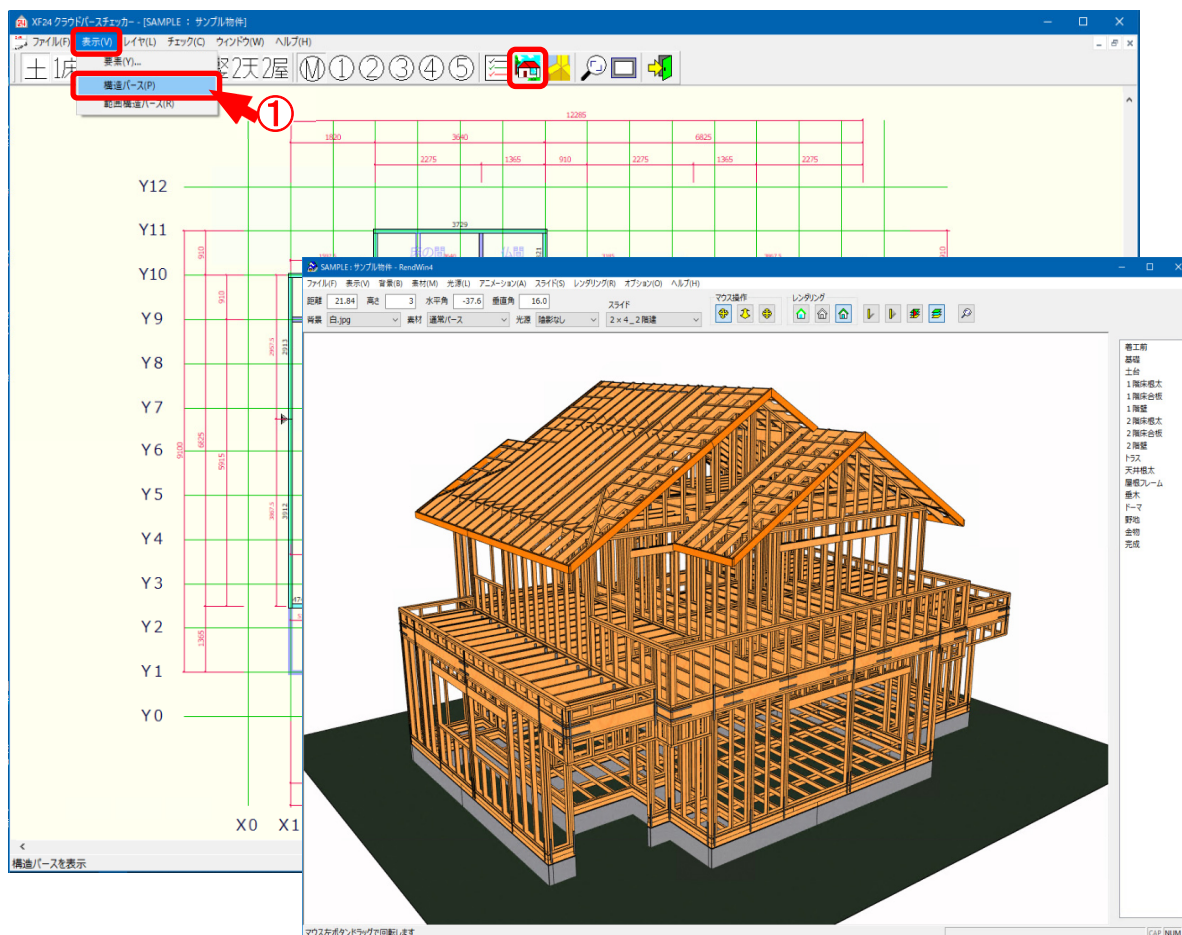
<設定方法>


構造パース起動後、〔オプション－デバイス設定〕をクリックし、「デバイス設定」の画面から「GPUを使用せず、ソフトウェアのみでレンダリングする。」にチェックをつけ、設定します。

構造パースが起動しない場合、「C:\¥nepgm¥xsperse¥bin¥RendWin4.exe」を直接ダブルクリックし、構造パースを起動させた後にデバイスの設定を行ってください。

3. クラウドパースチェッカー起動 《I. 伏図画面》／構造パース起動

◆ クラウドパースチェッカーを使用して、構造パースを起動します。



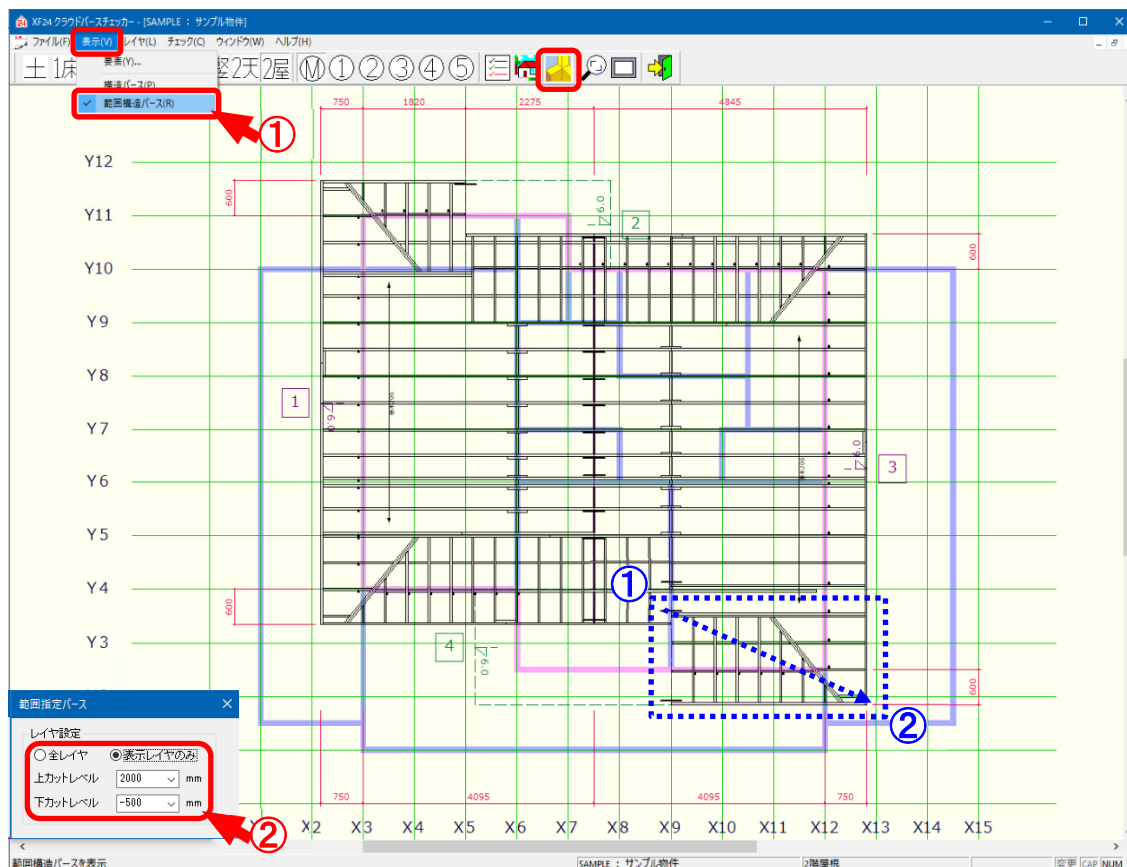
- ①  をクリックするか、〔表示－構造パース〕をクリックします。
- ② 構造パースが起動します。
- ③ 各方向からパース図を確認できます。




パース図の描画速度が遅い場合は、〔オプション－レンダリング設定〕(36～37ページ)をご確認ください。

3. クラウドパースチェッカー起動 《I. 伏図画面》／範囲構造パース起動

◆ クラウドパースチェッカーを使用して、描画範囲を指定し構造パースを起動します。

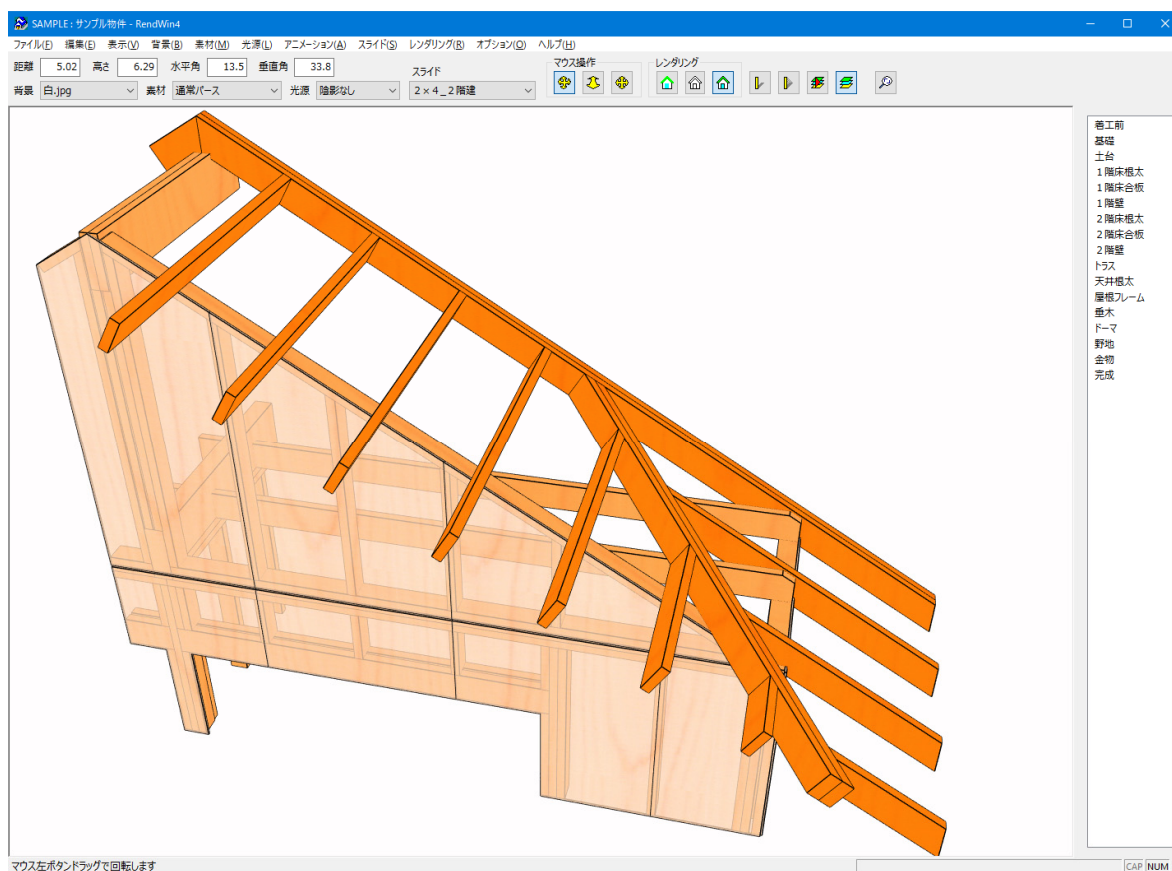


- ①  をクリックするか、「表示－範囲構造パース」をクリックします。
- ② 「範囲指定パース」の画面が表示されます。
 - ・全レイヤ：土台から屋根レイヤまで全てのレイヤが対象となり表示されます。
 - ・表示レイヤのみ：「上カットレベル」「下カットレベル」を選択または数値を直接入力で設定します。

範囲指定したレイヤを基準（0 mm）レベルとし、「上カットレベル」「下カットレベル」で設定した領域に配置された要素が表示されます。
- ③ ①～②点を対角にドラッグし、範囲を指定します。



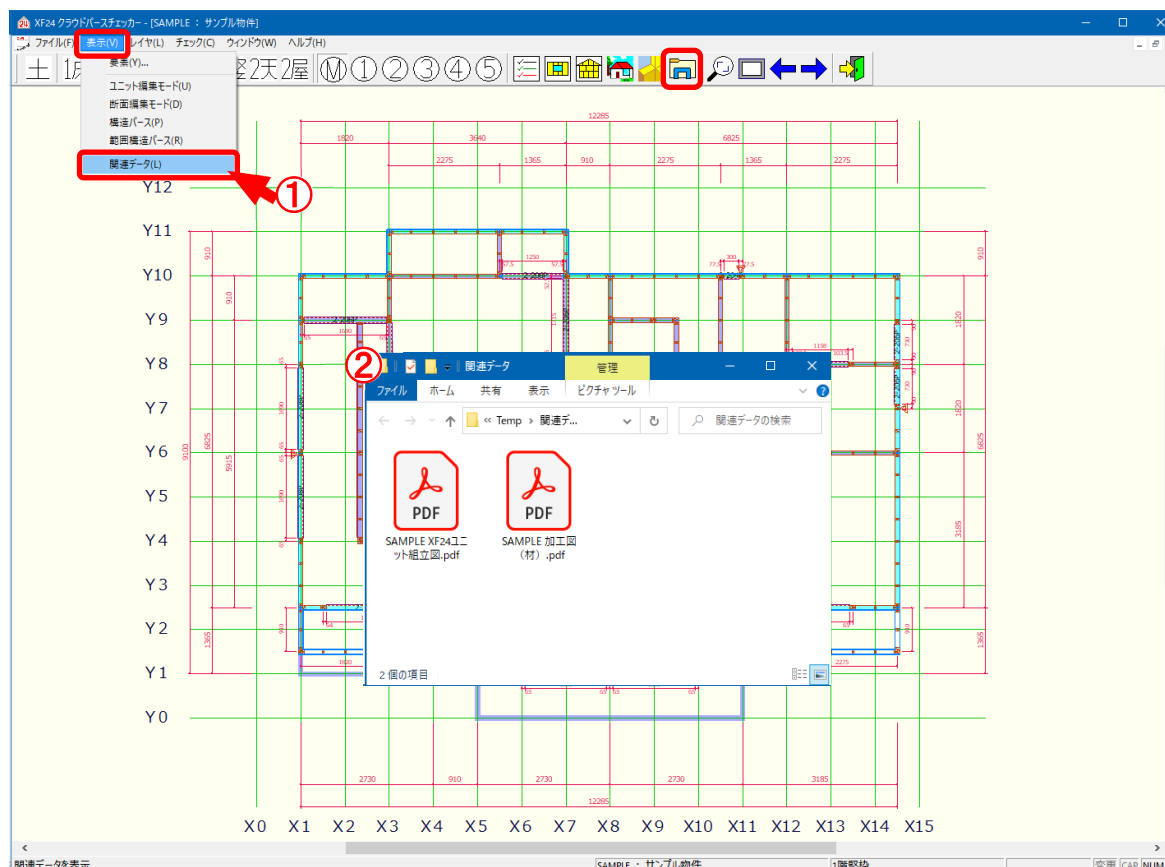
3. クラウドパースチェッカー起動 《I. 伏図画面》／範囲構造パース起動




- ④ 指定した範囲で材や合板がカットしてパース図が表示されます。
- ⑤ 各方向からパース図を確認できます。

3. クラウドパーサチェッカー起動 《 I . 伏図画面 》／関連データ

- ◆ クラウドパーサチェッカーでアップロードされた P D F などのファイルを開きます。



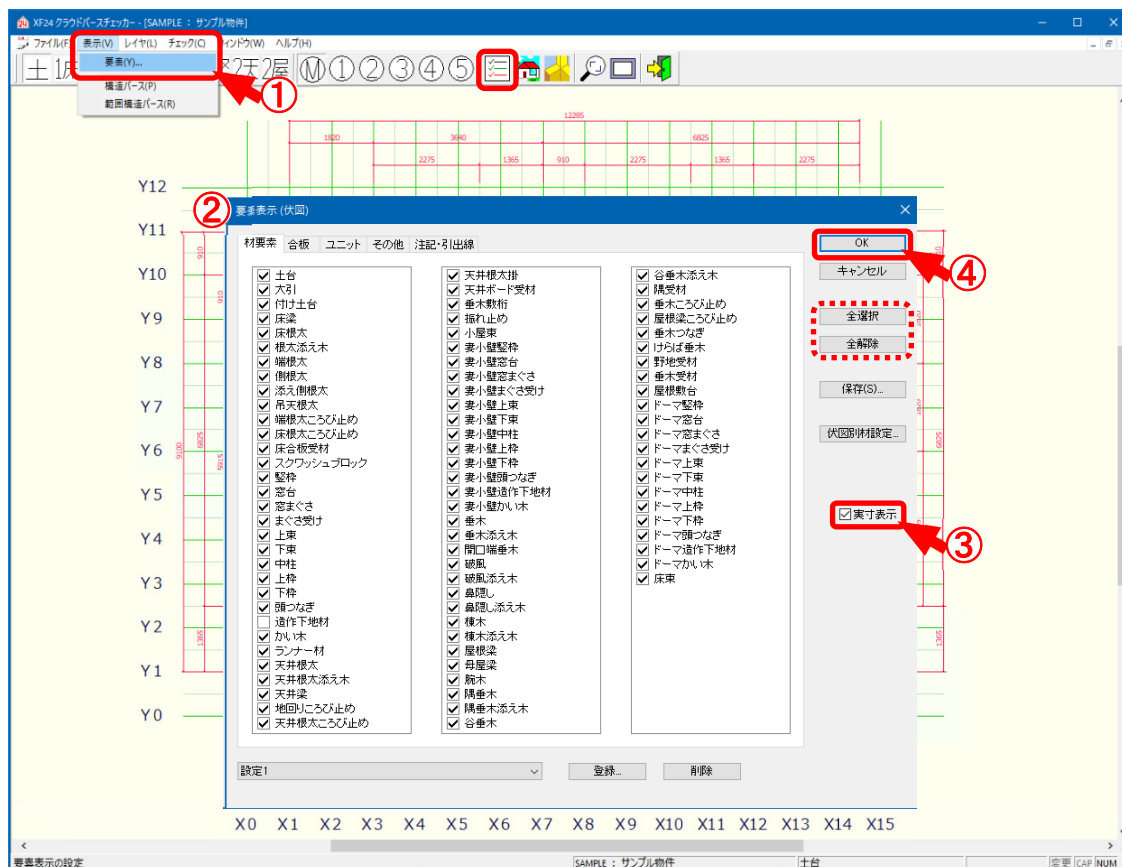
①  をクリックするか、[表示－関連データ]をクリックします。


② 「関連データ」のフォルダーが表示されます。

アップロードされた P D F などのファイルが保存されていますので、各ファイルを開いて確認することができます。

3. クラウドパースチェッカー起動 《 I . 伏図画面 》／表示要素設定

◆ クラウドパースチェッカーの伏図画面に表示する要素を設定します。



①  をクリックするか、「表示 - 要素」をクリックします。

② 「要素表示（伏図）」の画面が表示されます。

「材要素」「合板」「ユニット」「その他」「注記・引出線」のタブを選択します。

伏図画面に表示する要素にチェックをつけます。

※ 「全選択」「全解除」をクリックすると、選択しているタブの全要素を選択、解除できます。

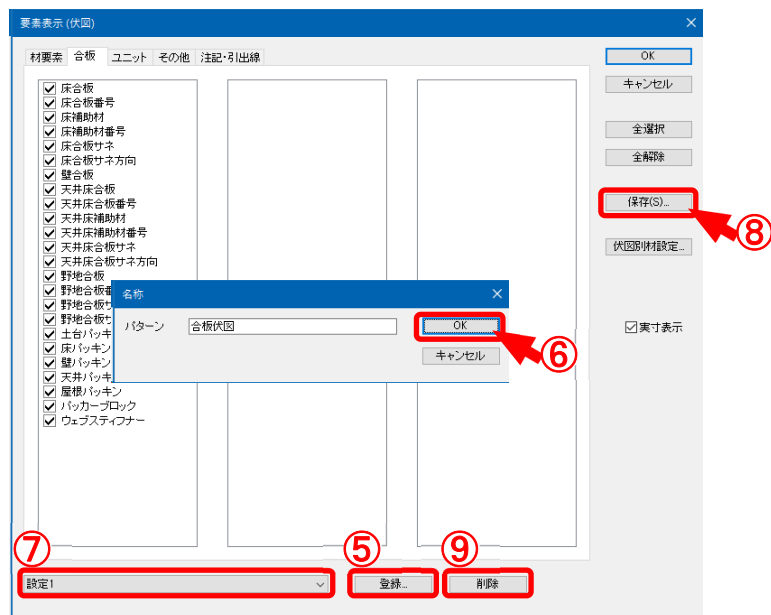
③ 「実寸表示」にチェックをつけると、伏図画面が実寸で表示されます。

④ ②や③を設定後、「OK」をクリックします。

チェックをつけた要素が伏図画面に表示されます。



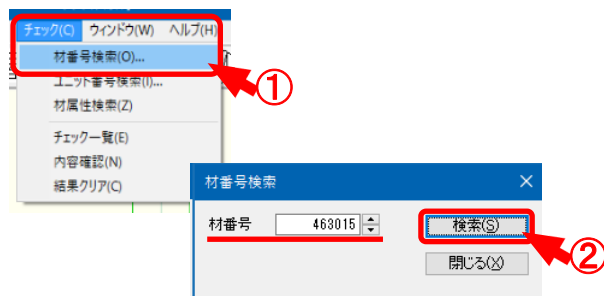
3. クラウドパースチェッカー起動 《 I . 伏図画面 》／表示要素設定



- ⑤ ②や③で設定した内容をパターン登録することができます。
「登録」をクリックします。
- ⑥ 「名称」の画面が表示されます。
パターン名称を入力し、「OK」をクリックします。
要素表示のパターンが登録できます。
- ⑦ 登録したパターンを選択すると、各要素のチェックON／OFFが登録した内容に変わります。
- ⑧ 各要素のチェックON／OFFを変更した場合は、「保存」をクリックします。
選択しているパターンに登録されます。
- ⑨ 「削除」をクリックすると、登録したパターンを削除します。

3. クラウドパースチェッカー起動 《 I. 伏図画面 》／材番号検索

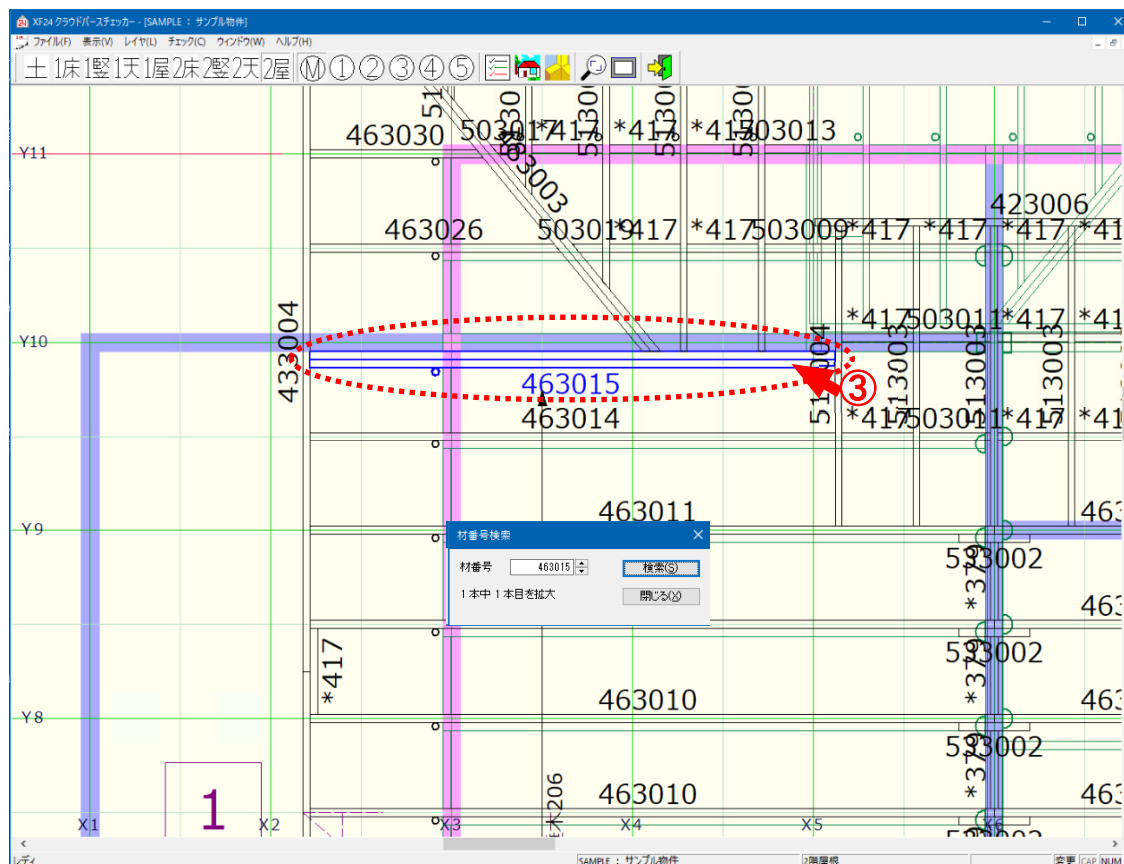
◆ クラウドパースチェッカーの伏図画面で材番号を検索します。



① 「チェック-材番号検索」をクリックします。

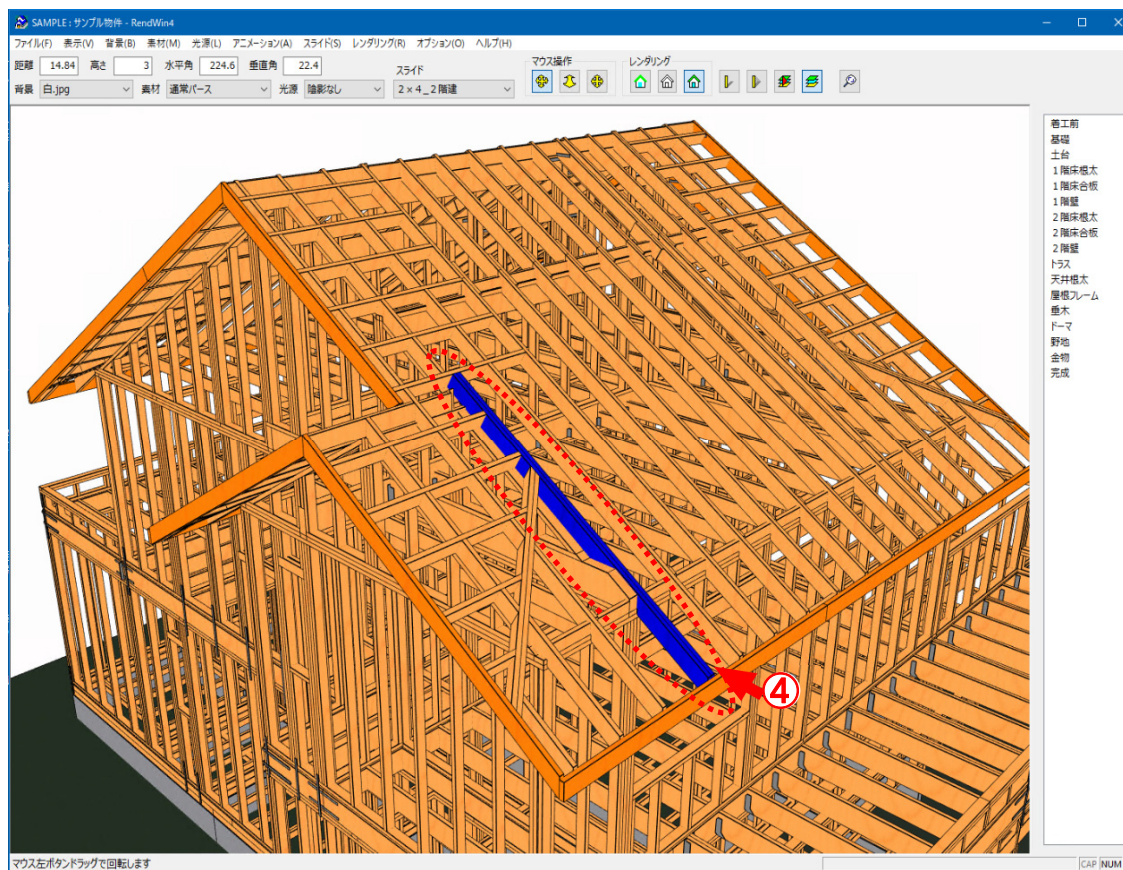
② 「材番号検索」の画面が表示されます。

検索する材番号を選択または直接入力で設定し、「検索」をクリックします。



③ 該当する材が拡大表示され、青色で表示されます。

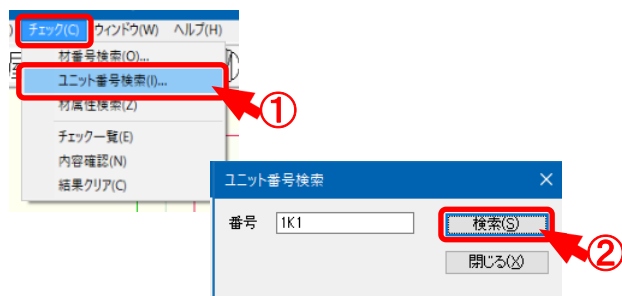
3. クラウドパースチェッカー起動 《 I . 伏図画面 》 / 材番号検索



④ ③の状態のまま、構造パースを起動すると、該当する材が青色で表示されます。

3. クラウドパースチェッカー起動 《 I . 伏図画面 》 / ユニット番号検索

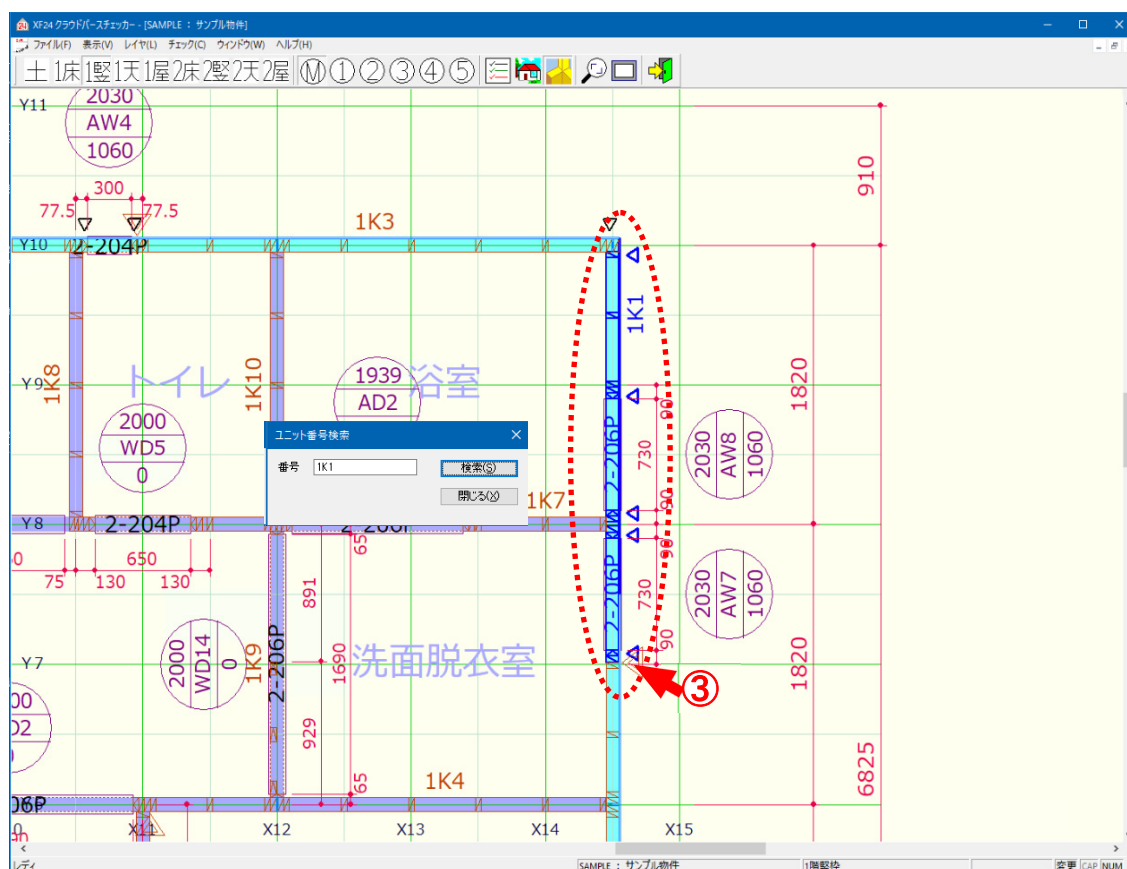
◆ クラウドパースチェッカーの伏図画面でユニット番号を検索します。



① 「チェック-ユニット番号検索」をクリックします。

② 「ユニット番号検索」の画面が表示されます。

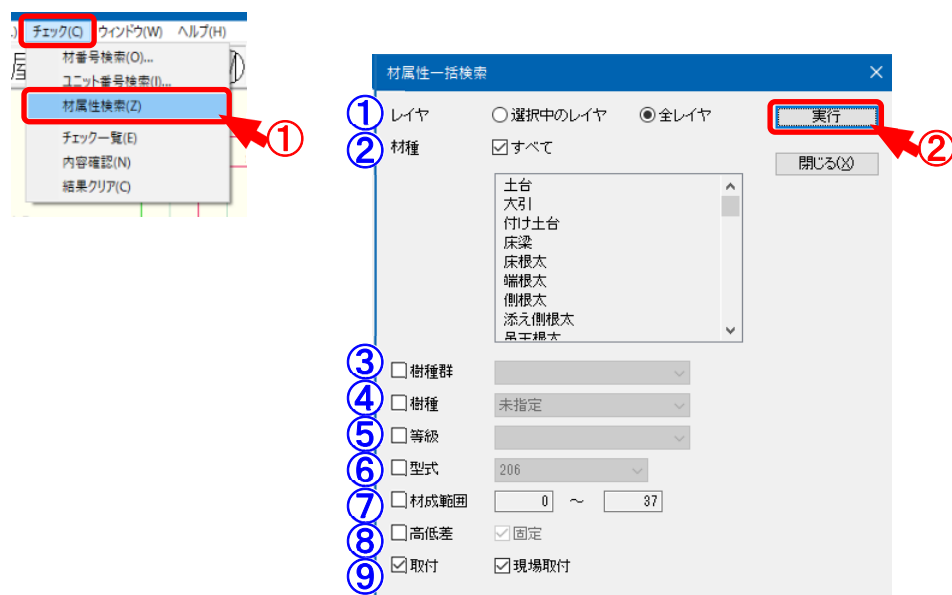
検索するユニット番号を直接入力で設定し、「検索」をクリックします。



③ 該当するユニットが拡大表示され、青色で表示されます。

3. クラウドパースチェッカー起動 《 I . 伏図画面 》／材属性検索

◆ クラウドパースチェッカーの伏図画面で材の属性を指定して検索します。



① 「チェッカー-材属性検索」をクリックします。

② 「材属性一括検索」の画面が表示されます。

検索する項目を設定後、「実行」をクリックします。

① レイヤ：検索する対象レイヤを選択します。

・選択中のレイヤ：表示しているレイヤのみ検索を行います。

・全レイヤ：土台レイヤから屋根レイヤまで全てのレイヤで検索を行います。

② 材種：検索する材要素を選択します。

C t r l キーや S h i f t キーを押したまま検索する材要素を選択すると、複数選択できます。

「すべて」にチェックをつけると、「材種」に表示されている全ての材要素が選択されます。

③ 樹種群：材の樹種群を指定して検索できます。

「樹種群」にチェックをつけて、樹種群を選択します。

④ 樹種：材の樹種を指定して検索できます。

「樹種」にチェックをつけて、樹種を選択します。

⑤ 等級：材の等級を指定して検索できます。

「等級」にチェックをつけて、等級を選択します。

⑥ 型式：材の型式を指定して検索できます。

「型式」にチェックをつけて、型式を選択します。

「集成型式すべて」「集成型式以外」を選択すると、材が構成されていない 4 0 4、4 0 6、4 1 0 等の集成型式のみの検索もできます。

3. クラウドパースチェッカー起動 《 I . 伏図画面 》／材属性検索

- ⑦ 材成範囲：材成の範囲を指定して検索できます。

「材成範囲」にチェックをつけて、検索対象とする材成の範囲を設定します。

指定した数値以上かつ指定した数値以下の材成が検索対象となります。

- ⑧ 高低差：高低差がついた材を検索できます。

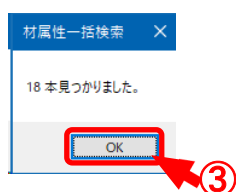
「高低差」にチェックをつけて、「固定」にもチェックをつけると、高低差を固定とした材要素が検索されます。

「高低差」にチェックをつけて、「固定」にチェックをつけない場合は、高低差を固定としていない材要素が検索されます。

- ⑨ 取付：現場取付の材を検索できます。

「取付」にチェックをつけて、「現場取付」にもチェックをつけると、現場取付の材要素が検索されます。

「取付」にチェックをつけて、「現場取付」にチェックをつけない場合は、現場取付となっていない材要素が検索されます。

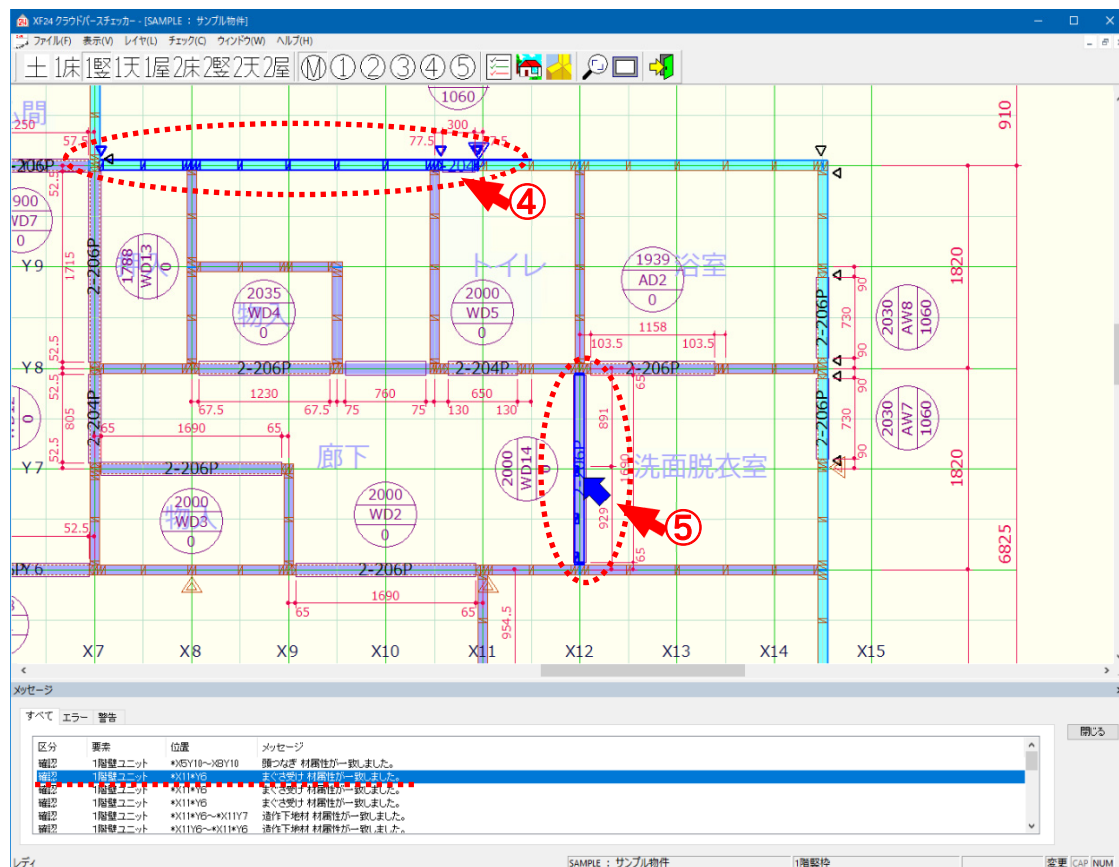


- ③ 「材属性一括検索」の画面が表示されます。

「OK」をクリックすると、検索項目に該当する材要素が検索されます。



3. クラウドパースチェッカー起動 《 I. 伏図画面 》／材属性検索



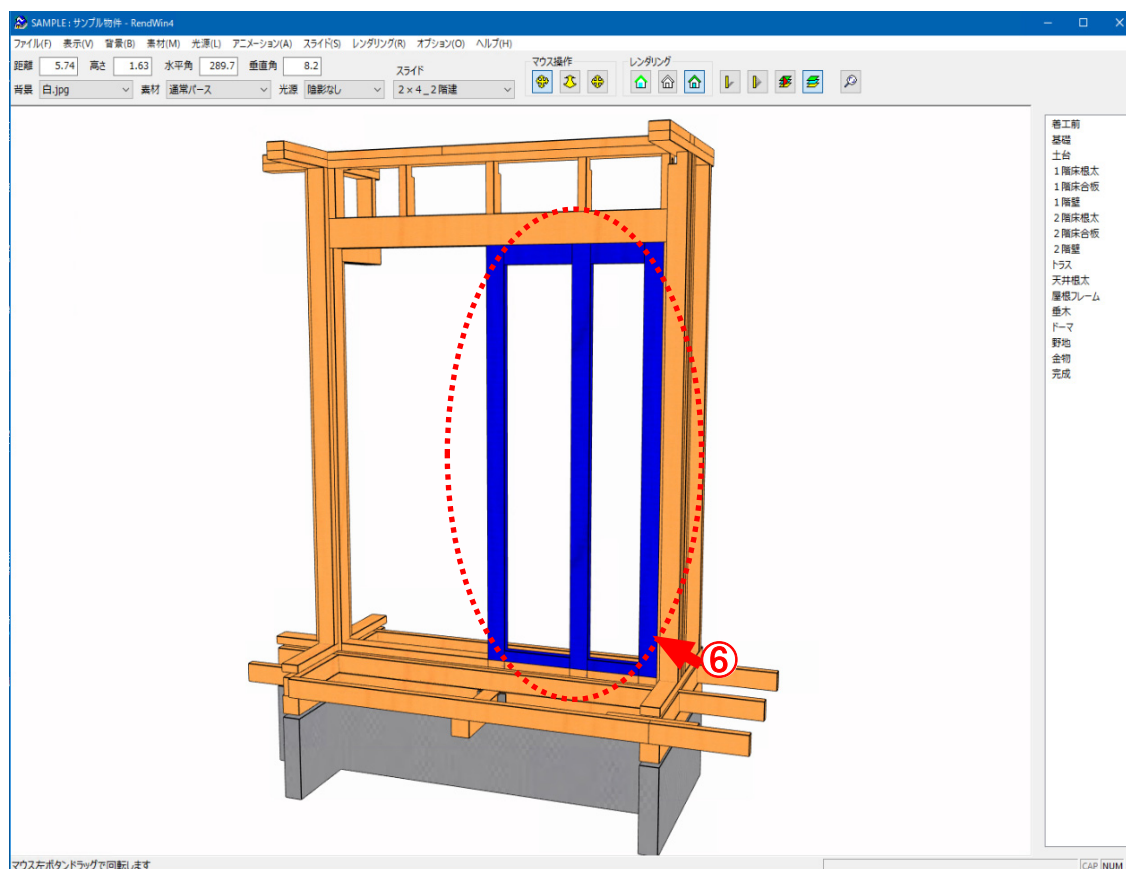
④ 該当する材が青色で表示されます。

⑤ 「メッセージ」の画面に検索結果が一覧で表示されます。

メッセージ一覧をダブルクリックすると、該当する材が拡大表示され、矢印が表示されます。



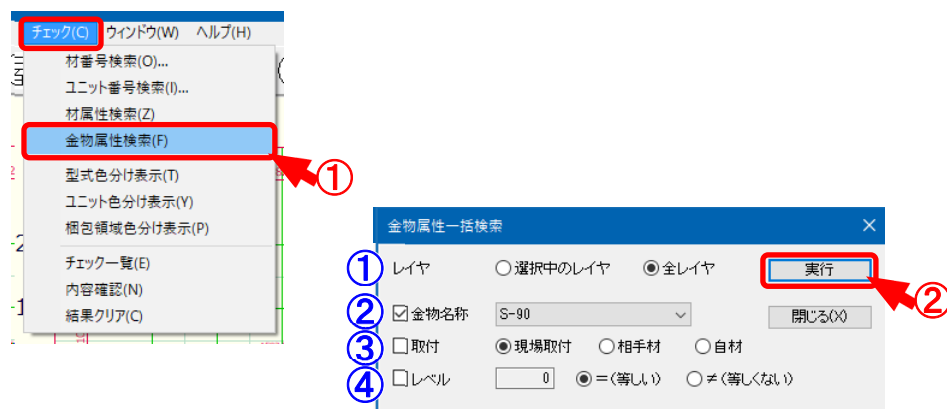
3. クラウドパースチェッカー起動 《 I . 伏図画面 》／材属性検索



⑥ ④の状態のまま、構造パースを起動すると、該当する材が青色で表示されます。

3. クラウドパースチェッカー起動 《 I. 伏図画面 》／金物属性検索

◆ クラウドパースチェッカーの伏図画面で金物の属性を指定して検索します。



① 「チェック－金物属性検索」をクリックします。

② 「金物属性一括検索」の画面が表示されます。

検索する項目を設定後、「実行」をクリックします。

① レイヤ：検索する対象レイヤを選択します。

・選択中のレイヤ：表示しているレイヤのみ検索を行います。

・全レイヤ：土台レイヤから屋根レイヤまで全てのレイヤで検索を行います。

② 金物名称：金物の名称を指定して検索できます。

「金物名称」にチェックをつけて、金物を選択します。

③ 取付：金物の取付方法を検索できます。

「取付」にチェックをつけて、金物の取付方法を「現場取付」「相手材」「自材」から選択します。

④ レベル：金物の取付レベル検索できます。

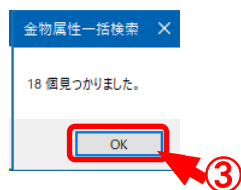
「レベル」にチェックをつけて、金物のレベル値を設定します。

設定したレベル値の金物を検索する場合は「＝（等しい）」を選択します。

設定したレベル値以外の金物を検索する場合は「≠（等しくない）」を選択します。

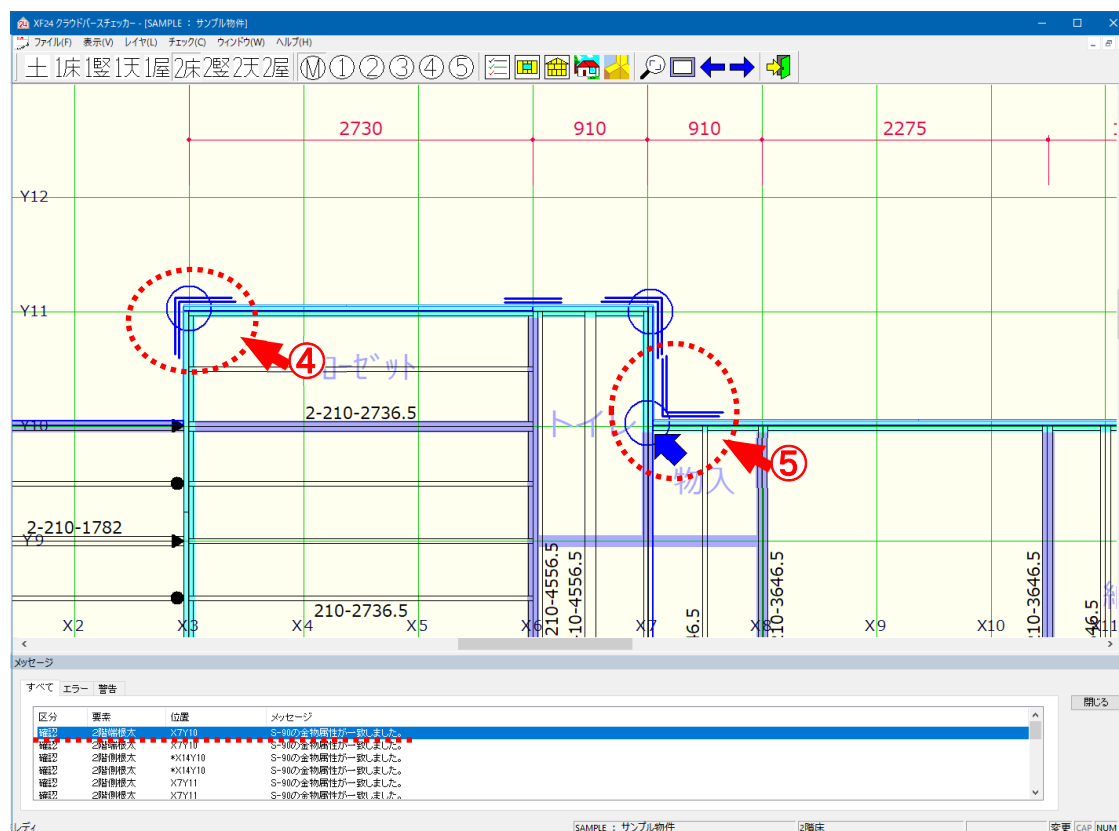


3. クラウドパースチェッカー起動 《I. 伏図画面》／金物属性検索



③ 「金物属性一括検索」の画面が表示されます。

「O K」をクリックすると、検索項目に該当する金物が検索されます。



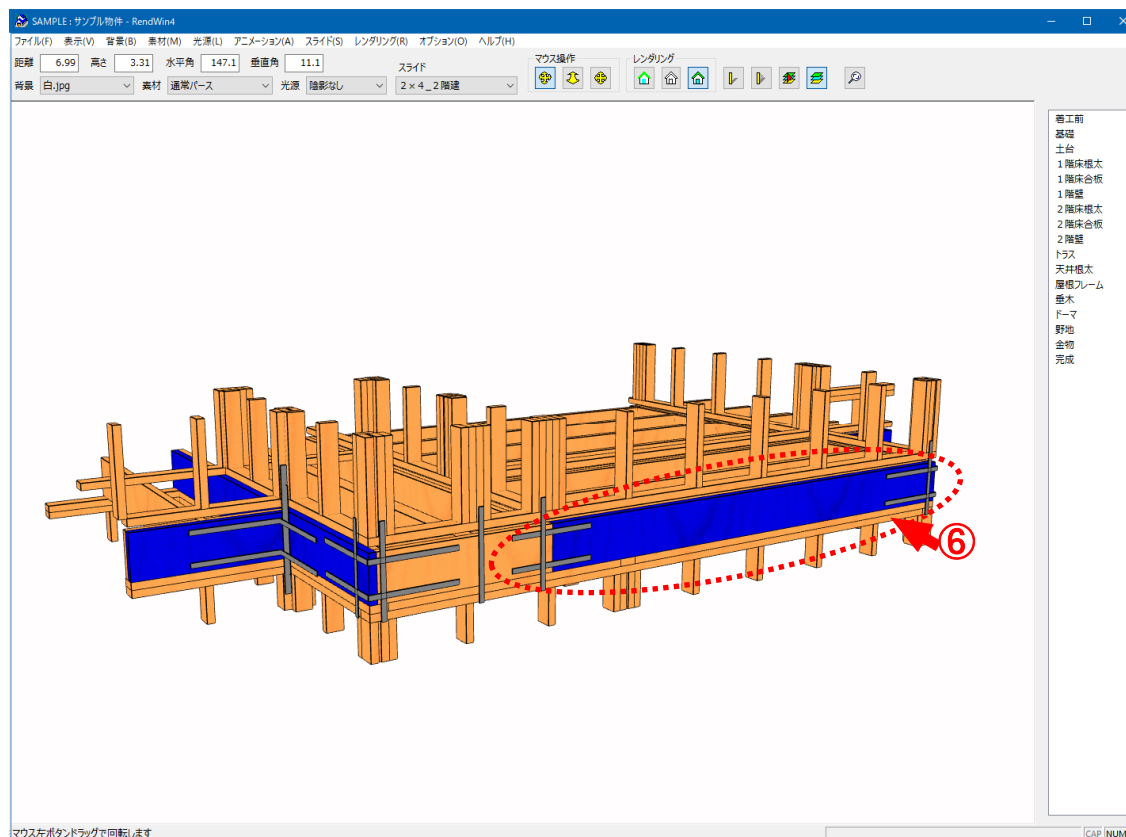
④ 該当する金物が青色で表示されます。

⑤ 「メッセージ」の画面に検索結果が一覧で表示されます。

メッセージ一覧をダブルクリックすると、該当する金物が拡大表示され、矢印が表示されます。



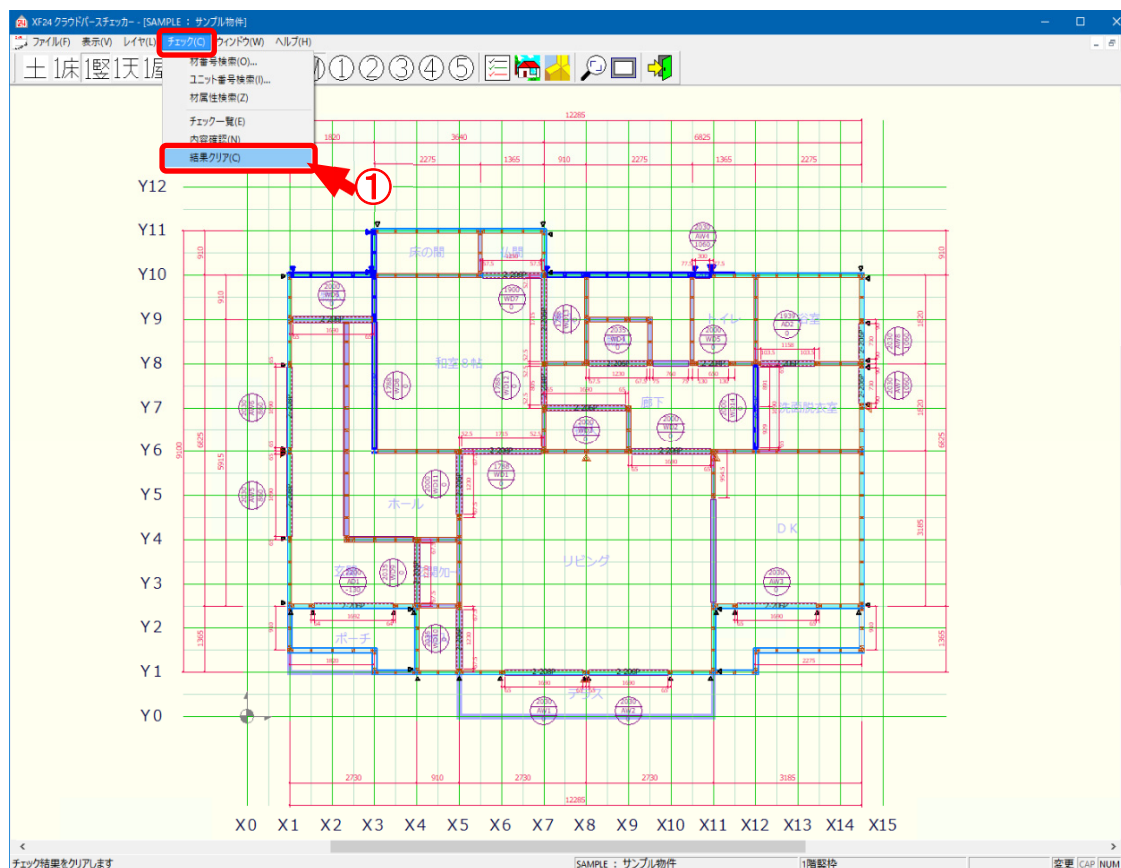
3. クラウドパースチェッカー起動 《I. 伏図画面》／金物属性検索



⑥ ④の状態のまま、構造パースを起動すると、該当する金物に取り付く材が青色で表示されます。

3. クラウドパースチェッカー起動 《 I . 伏図画面 》／検索結果クリア

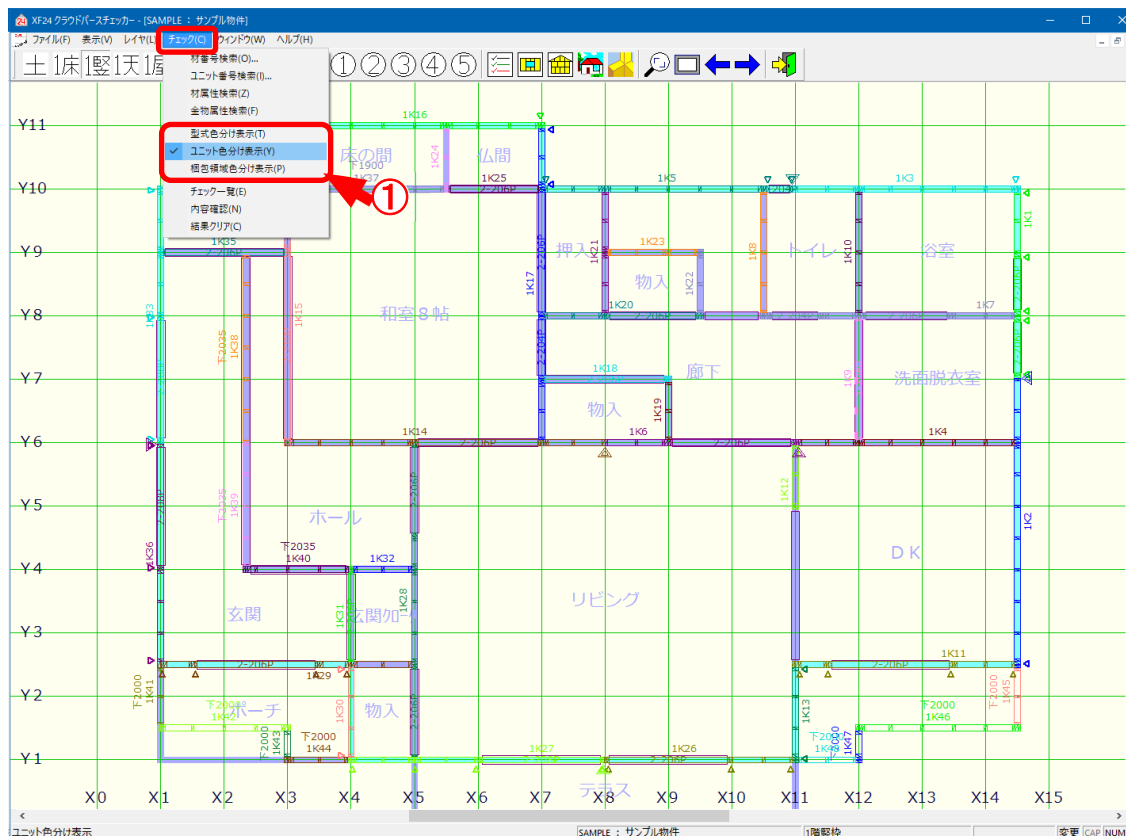
- ◆ クラウドパースチェッカーの伏図画面で検索結果を一括でクリアします。



- ① 「チェック結果クリア」をクリックします。
- ② 伏図画面に表示されていた検索結果の表示（青色）が消えます。

3. クラウドパースチェッカー起動 《I. 伏図画面》／色分け表示

- ◆ クラウドパースチェッカーの伏図画面で型式、ユニット、梱包領域別に色分け表示します。



- ① [チェック型式色分け表示、ユニット色分け表示、梱包領域色分け表示]をクリックします。

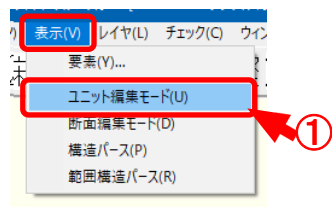
- ・型式色分け表示：材の型式別に色分け表示されます。
- ・ユニット色分け表示：ユニット番号別に色分け表示されます。
- ・梱包領域色分け表示：梱包領域番号別に色分け表示されます。


- ② 伏図画面が色分け表示されます。

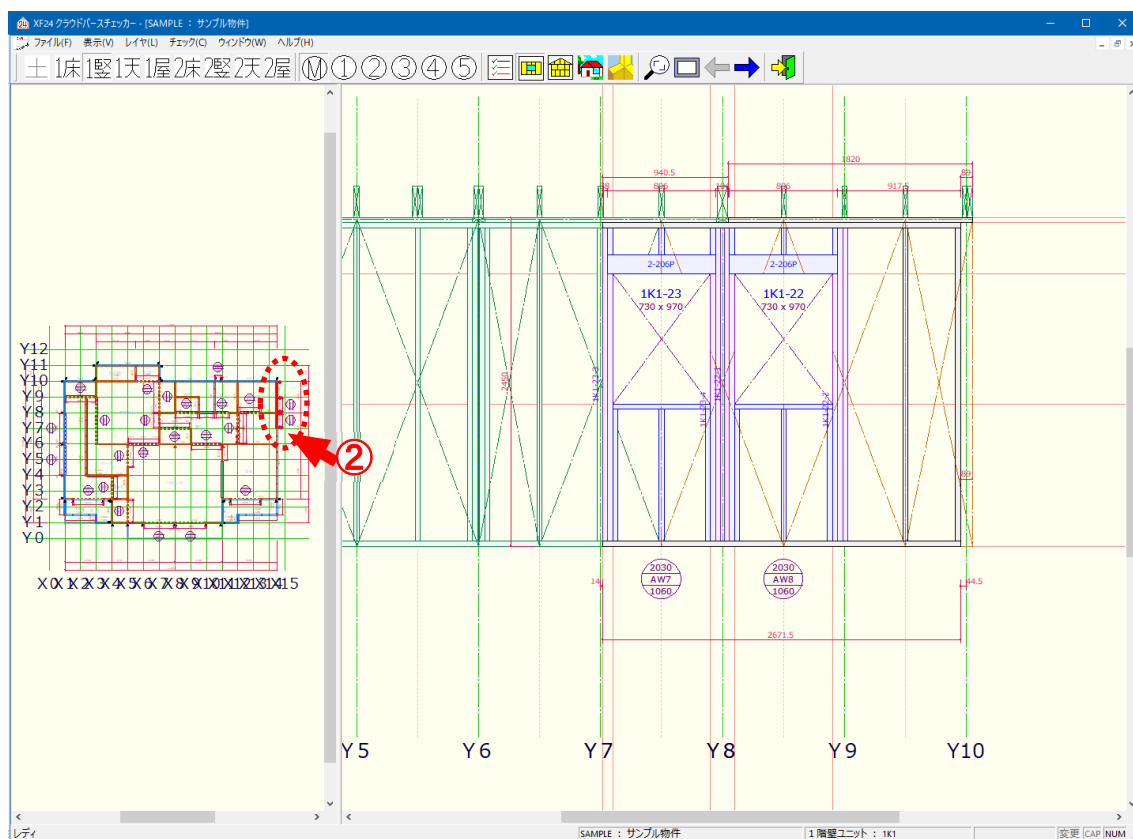
※ 色分け表示を解除する場合は、もう一度[チェック型式色分け表示、ユニット色分け表示、梱包領域色分け表示]をクリックします。

3. クラウドパースチェッカー起動 《 I . 伏図画面 》／ユニット編集モード起動

◆ クラウドパースチェッカーの伏図画面からユニット編集モードを起動します。



①  をクリックするか、〔表示－ユニット編集モード〕をクリックします。



② 画面左側の伏図画面でユニットをクリックすると、画面右側に選択したユニットが組立図で表示されます。

3. クラウドパースチェッカー起動 《 I . 伏図画面 》／ユニット編集モード起動

『メインツールバー（ユニット編集モード）』



- ・要素表示（ユニット編集）：ユニット図画面に表示する要素を設定します。
＝〔表示－要素〕



- ・ユニット編集モード：ユニット編集モードを終了し、伏図画面に戻ります。
＝〔表示－ユニット編集モード〕



- ・断面編集モード：断面編集モードに切り替えます。
＝〔表示－断面編集モード〕



- ・構造パース：構造パースを起動します。
＝〔表示－構造パース〕



- ・範囲構造パース：パース図の描画範囲を指定して、構造パースを起動します。
壁ユニット編集モードの範囲構造パースは、「前カット位置」「奥カット位置」を選択または数値を直接入力で設定します。壁ユニットの配置位置を基準とし、「前カット位置」「奥カット位置」で設定した領域に配置された要素が表示されます。
＝〔表示－範囲構造パース〕



- ・関連データ：アップロードされた P D F などのファイルが保存されています。
＝〔表示－関連データ〕



- ・範囲拡大：指定した範囲の画面を拡大表示します。
＝〔ウィンドウ－範囲拡大〕



- ・全体図：全体図に戻します。
＝〔ウィンドウ－全体図〕



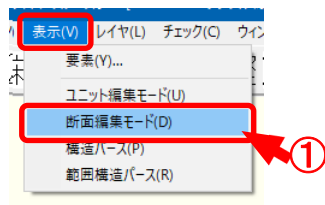
- ・前のページ／次のページ：選択中のユニットからユニット番号順に順送りします。
S h i f t キーを押しながらクリックすると、ユニット番号の先頭または最後のユニットが表示できます。




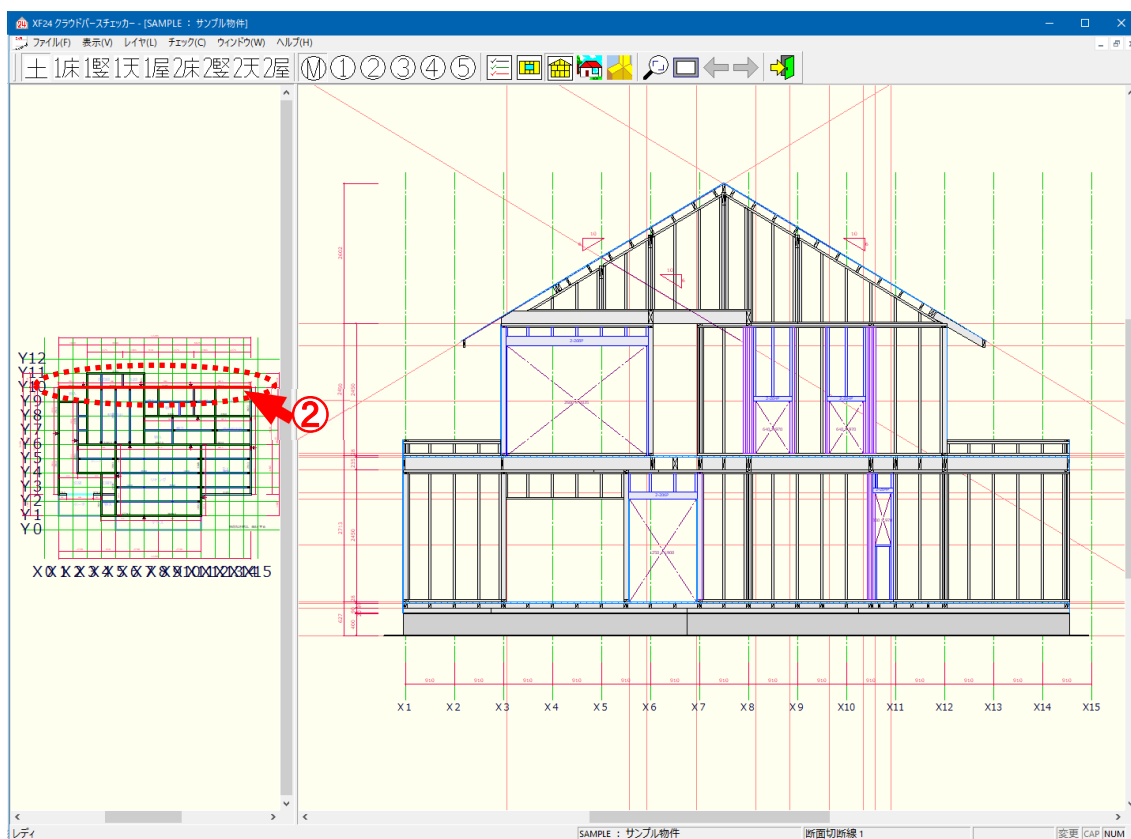
- ・アプリケーションの終了：パースチェックシステムを終了します。
＝〔ファイル－アプリケーションの終了〕

3. クラウドパースチェッカー起動 《I. 伏図画面》／断面編集モード起動

◆ クラウドパースチェッカーの伏図画面から断面編集モードを起動します。



①  をクリックするか、〔表示－断面編集モード〕をクリックします。



② 画面左側の伏図画面で断面切断線をクリックすると、画面右側に選択した断面切断線の面が立面で表示されます。

3. クラウドパースチェッカー起動 《 I . 伏図画面 》／断面編集モード起動

『メインツールバー（断面編集モード）』



- ・要素表示（断面図編集）：断面図画面に表示する要素を設定します。
＝〔表示－要素〕



- ・ユニット編集モード：ユニット編集モードに切り替えます。
＝〔表示－ユニット編集モード〕



- ・断面編集モード：断面編集モードを終了し、伏図画面に戻ります。
＝〔表示－断面編集モード〕



- ・構造パース：構造パースを起動します。
＝〔表示－構造パース〕



- ・範囲構造パース：パース図の描画範囲を指定して、構造パースを起動します。
「前カット位置」「奥カット位置」を選択または数値を直接入力で設定します。断面切断線の配置位置を基準とし、「前カット位置」「奥カット位置」で設定した領域に配置された要素が表示されます。
＝〔表示－範囲構造パース〕



- ・関連データ：アップロードされた P D F などのファイルが保存されています。
＝〔表示－関連データ〕



- ・範囲拡大：指定した範囲の画面を拡大表示します。
＝〔ウィンドウ－範囲拡大〕



- ・全体図：全体図に戻します。
＝〔ウィンドウ－全体図〕



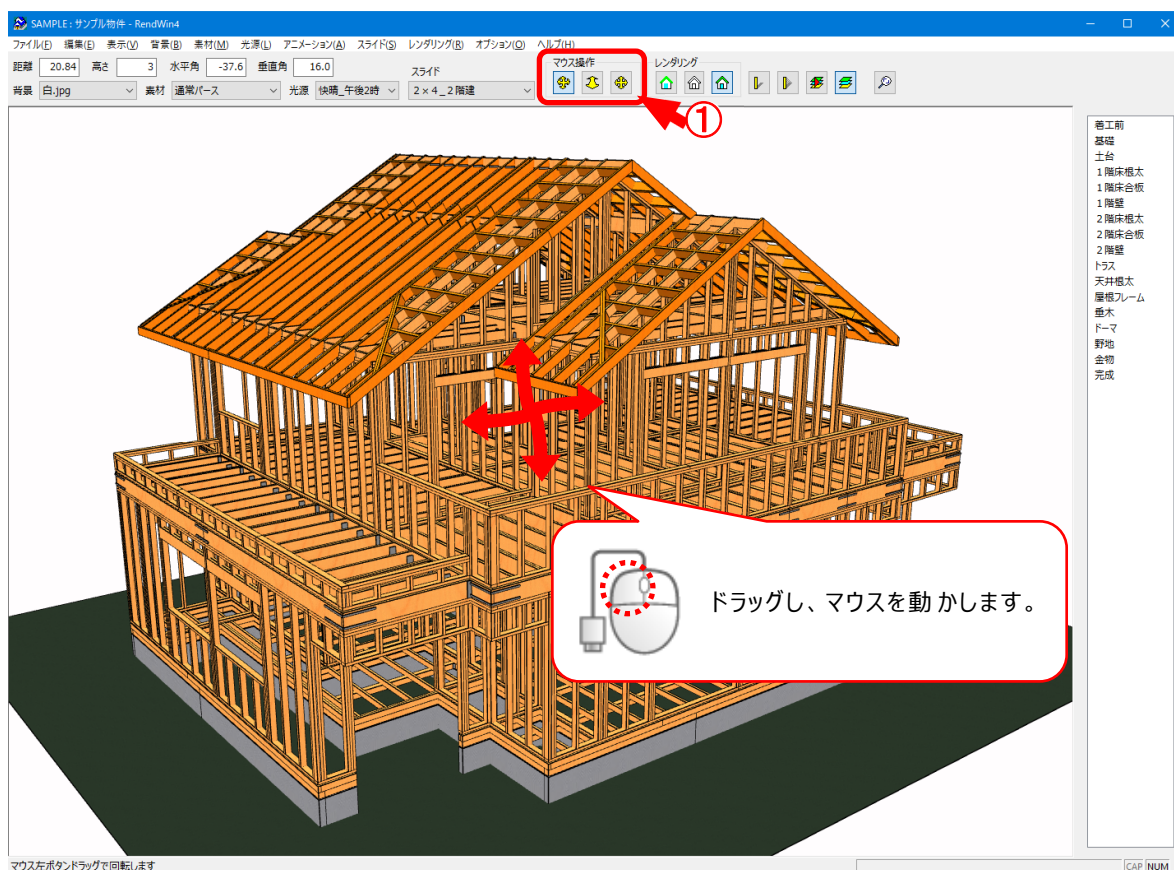
- ・前のページ／次のページ：選択中の断面図から断面切断線番号順に順送りします。
S h i f t キーを押しながらクリックすると、断面切断線番号の先頭または最後の断面図が表示できます。



- ・アプリケーションの終了：パースチェックシステムを終了します。
＝〔ファイル－アプリケーションの終了〕

3. クラウドパースチェッカー起動 《Ⅱ. パース図》/マウス操作

- ◆ 構造パースのマウス操作では、マウスの左ボタンで回転、表示距離変更、表示位置移動の操作を行い、各方向からパース図を確認します。



- ① それぞれのボタンが押された状態で、マウス操作を行います。
構造パース起動時は、〔表示－回転モード〕が選択された状態です。

『マウス操作』



・〔表示－回転モード〕

マウスの左ボタンで画面をドラッグすると、パース図が回転します。



・〔表示－距離モード〕

マウスの左ボタンで画面を前後にドラッグすると、パース図の表示距離を変更できます。



・〔表示－平行移動モード〕

マウスの左ボタンで画面を上下左右にドラッグすると、パース図の表示位置を移動できます。

※ 〔表示－平行移動モード〕を選択していない状態でも、マウスの中ボタンで画面を上下左右にドラッグすると、パース図の表示位置を移動できます。

3. クラウドパースチェッカー起動 《Ⅱ. パース図》/マウス操作

『タッチ操作』



・タブレット等のタッチ操作では、1本の指で画面に触れスライドすると、回転します。

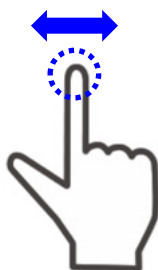


・タブレット等のタッチ操作では、2本の指で画面に触れ近づけたり(ピンチイン)離したり(ピンチアウト)すると、表示距離が変更します。

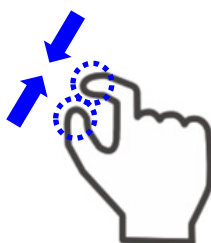


・タブレット等のタッチ操作では、2本の指で画面に触れスライドすると、平行移動します。

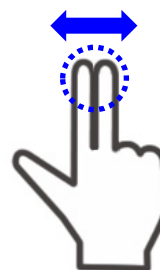
＜回転移動＞



＜距離移動＞

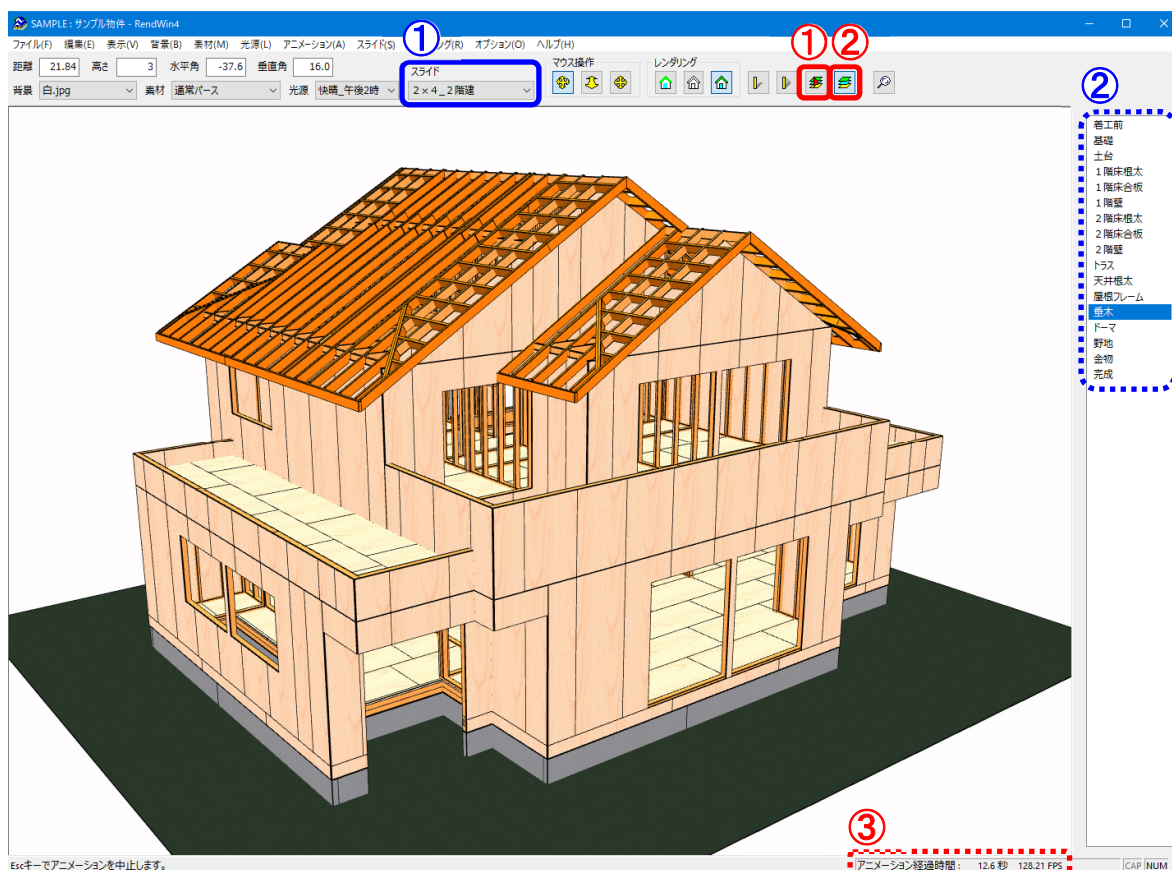


＜平行移動＞



3. クラウドパースチェッカー起動 《Ⅱ. パース図》/スライド

- ◆ 構造パースのスライドでは、各部位毎に設定したフレームを登録し、指定した間隔でパース図を自動再生します。



- ① スライドを再生すると、①で選択したスライドが再生されます。
- ② スライド実行中は、レイヤバー（②）に再生中のフレーム名称が順送りされます。
- ③ スライド実行中は、〔表示－ステータスバー〕に経過時間が表示されます。
- ④ 再生中のスライドを停止する場合は、〔スライド－停止〕をクリックするか、「E s c」キーをクリックします。

『レイヤバーの表示／非表示』



・〔表示－レイヤバー〕

レイヤバー（②）の表示／非表示が切替ります。

レイヤバーには〔スライド－再生〕で実行するフレーム名称が表示されます。

『スライド再生』



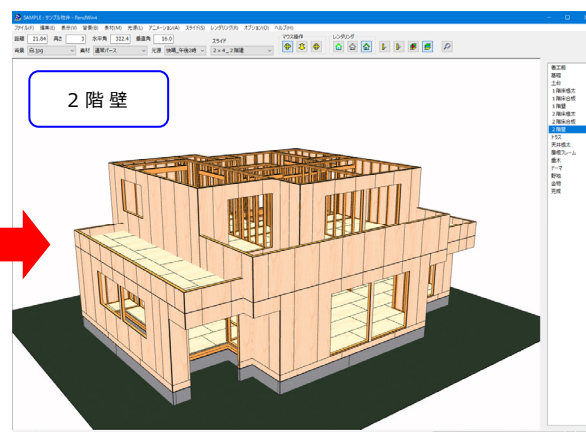
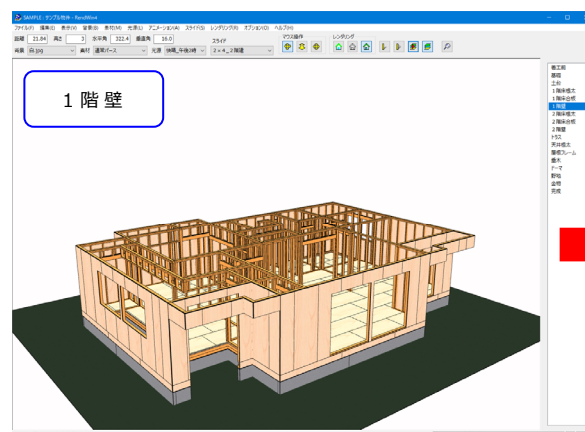
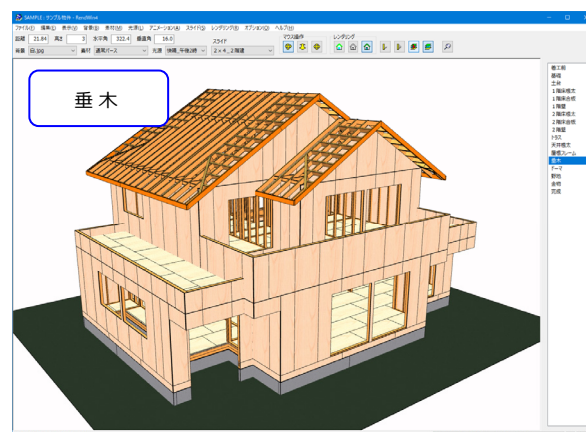
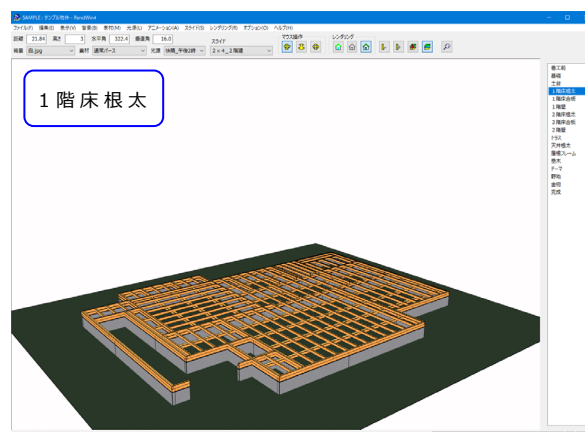
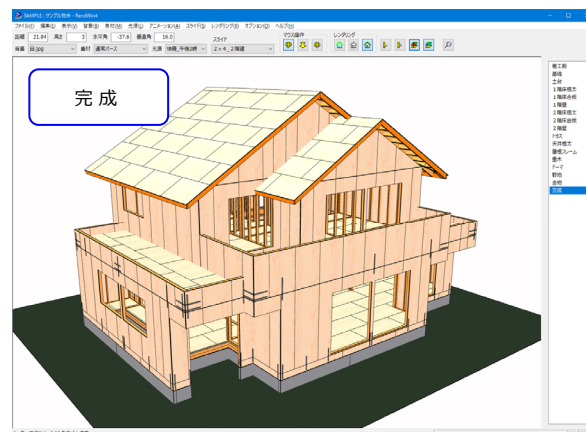
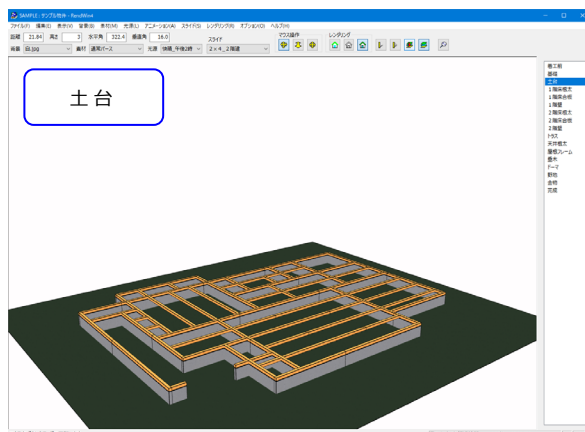
・〔スライド－再生〕

〔スライド－設定〕（①）で選択したスライドが実行されます。

3. クラウドパーセッカー起動 《Ⅱ. パース図》/スライド

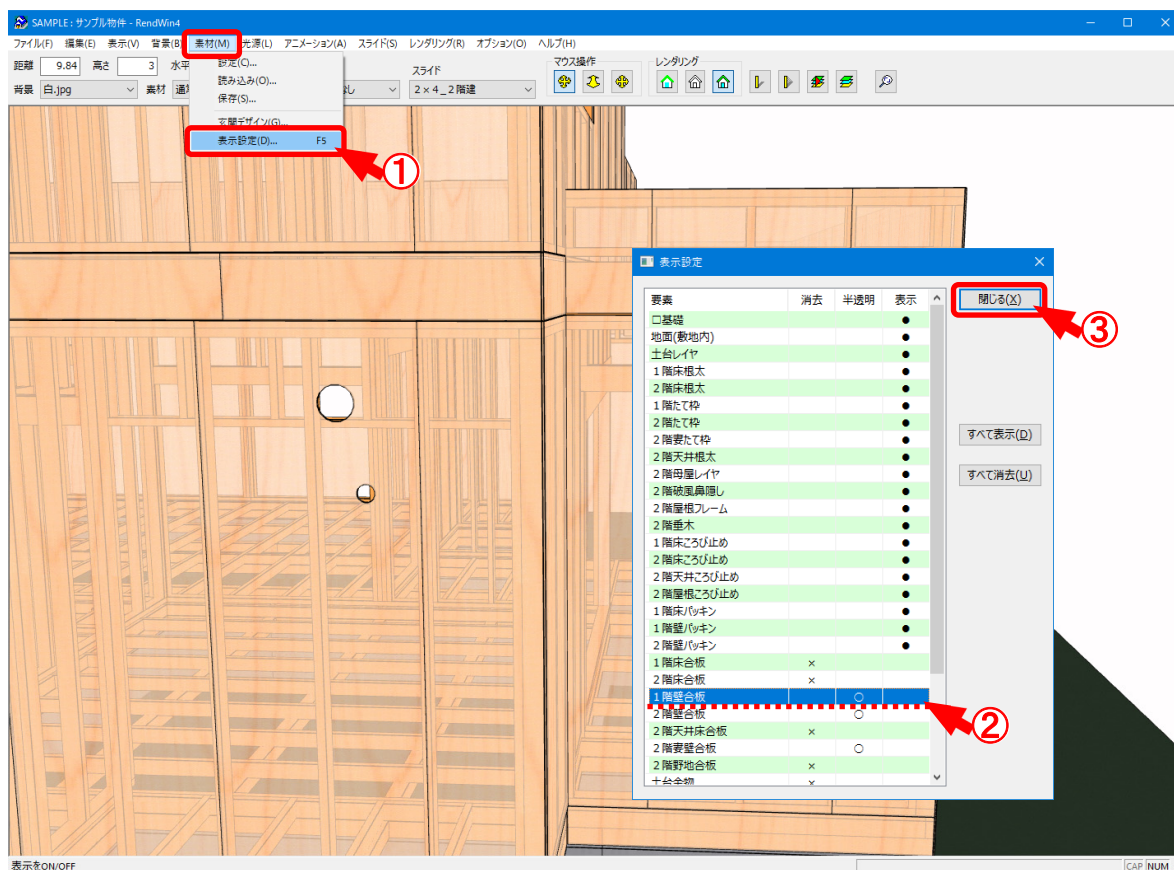
＜スライド再生＞

スライド (①) は、「2×4_2階建」「2×4_3階建」「2×4_全体」「2×4_平屋建」から選択できます。



3. クラウドパースチェッカー起動 《Ⅱ. パース図》／表示設定

- ◆ 構造パースの表示設定では、要素毎にパース図の非表示、半透明表示、通常表示を選択します。



① 「素材－表示設定」をクリックします。

② 「表示設定」の画面が表示されます。

要素毎に「消去」「半透明」「表示」を選択します。

・消去：「×」が選択された要素は、パース図に表示されません。

「すべて消去」を選択すると、全ての要素が「×」に変わります。

・半透明：「○」が選択された要素は、パース図に半透明で表示されます。

・表示：「●」が選択された要素がパース図に表示されます。

「すべて表示」を選択すると、全ての要素が「●」に変わります。

※ 「消去」「半透明」「表示」をクリックした時点で表示が更新されますので、パース図を確認しながら設定できます。

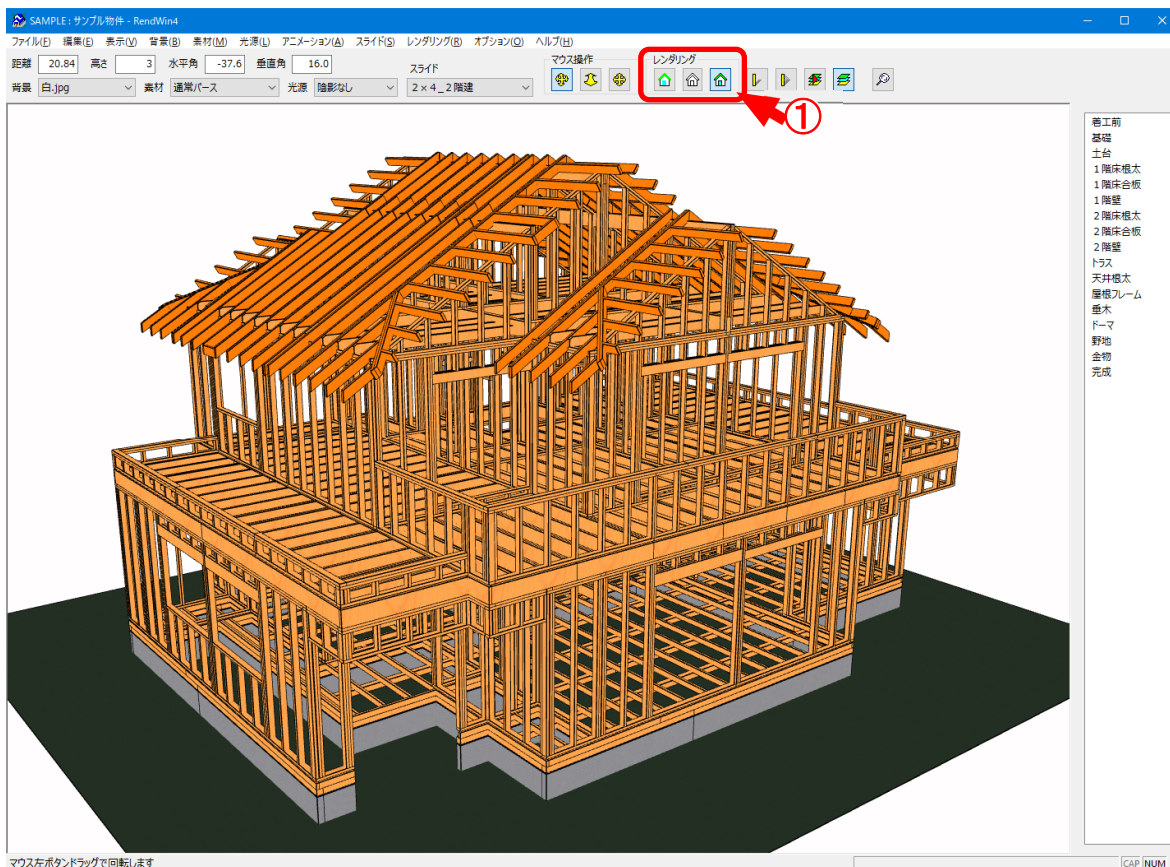
③ 設定終了後、「閉じる」をクリックします。



「素材－設定」で要素の色や透過率を設定できます。

3. クラウドパースチェッカー起動 《Ⅱ. パース図》／レンダリング

◆ 構造パースのレンダリングでは、パース図のデザインを選択します。



① パース図のデザインをカラー画像、輪郭消去、輪郭強調から選択します。

構造パース起動時は、〔オプション－レンダリング設定〕の「標準のレンダリングモード」で設定したレンダリングで表示されます。

『レンダリング』



・〔レンダリング－カラー画像〕

カラーパース図を表示します。



・〔レンダリング－輪郭消去〕

輪郭消去されたパース図を表示します。

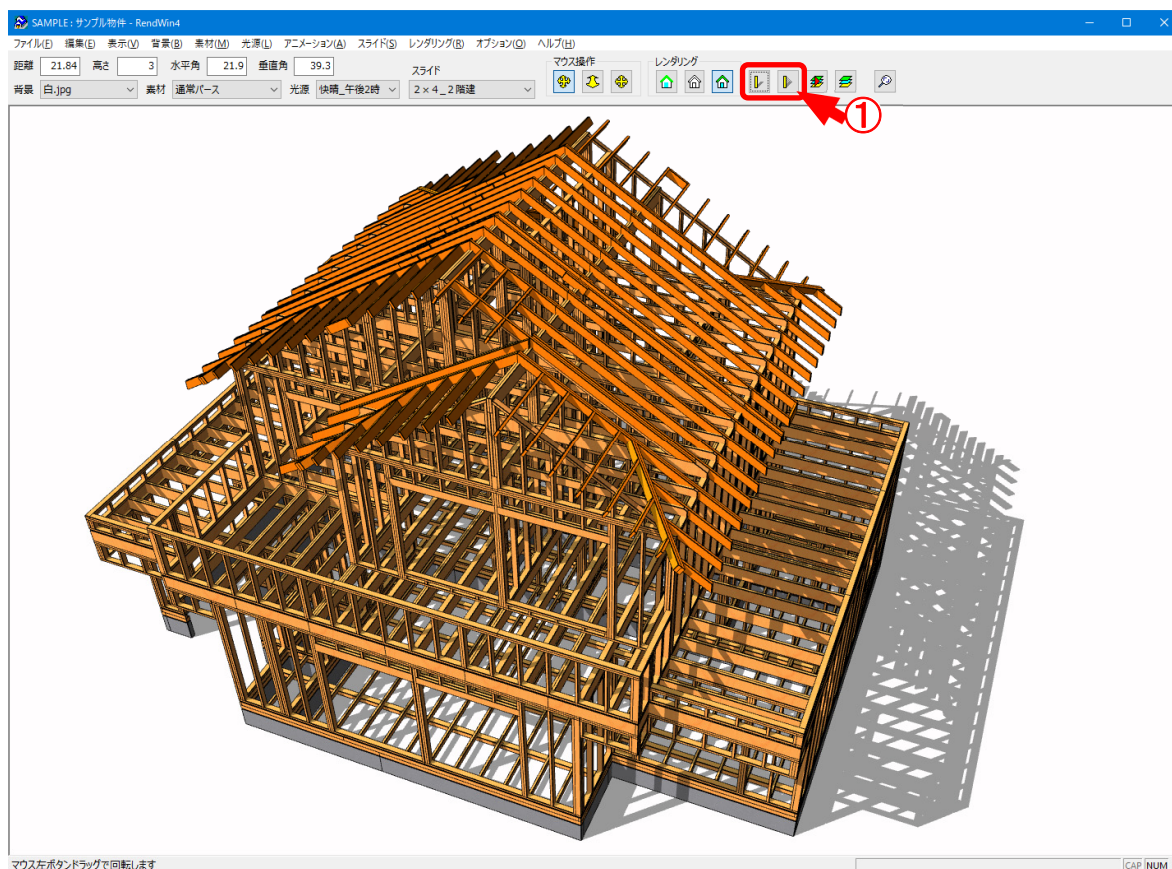


・〔レンダリング－輪郭強調〕

カラーで輪郭線が強調されたパース図を表示します。

3. クラウドパースチェッカー起動 《Ⅱ. パース図》／影の表示

◆ 構造パースの影の表示では、パース図に影や影の軌跡を表示します。



① パース図に影または影の軌跡を表示します。

〔光源－設定〕の光源を参照し、影の方向や長さが決まります。

『影の表示』



・〔光源－影の表示〕

影を表示します。

『影の軌跡表示』

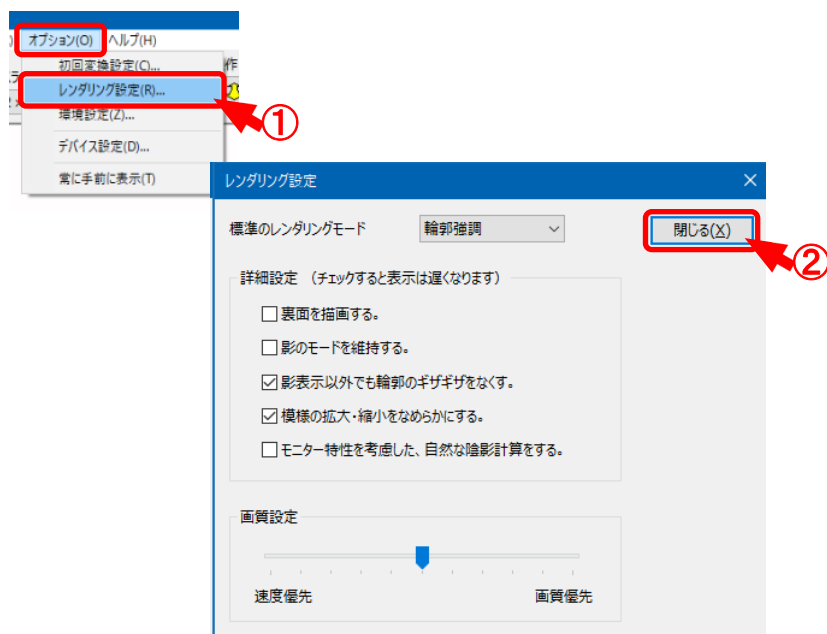


・〔光源－影の軌跡表示〕

影の軌跡を表示します。

3. クラウドパースチェッカー起動 《Ⅱ. パース図》／レンダリング設定

- ◆ 構造パースのレンダリング設定では、パース図の表示に時間が掛かる場合に、設定を変更することで解消されます。



- ① 「オプション－レンダリング設定」をクリックします。
- ② 「レンダリング設定」の画面が表示されます。
レンダリングや画質を設定し、「閉じる」をクリックします。

『標準のレンダリングモード』

構造パース起動時の初期のレンダリングを選択します。

パース図のデザインを「カラー画像」「輪郭消去」「輪郭強調」から選択します。

※ 構造パース起動後は、「レンダリング－カラー画像、輪郭消去、輪郭強調」から変更できます。



「詳細設定」の設定項目にチェックとつくと、パース図の描画スピードが遅くなります。
回転、移動の操作で描画速度が遅い場合、「詳細設定」の設定項目のチェックをはずし、
「画質設定」を速度優先で設定してください。

3. クラウドパースチェッカー起動 《Ⅱ. パース図》／レンダリング設定

『詳細設定』

・「裏面を描画する。」

チェックをつけると、地面の下から等、裏面からパース図を確認しても、描画されます。

※ パース図の描画スピードが遅くなる為、通常はチェックをOFFにしてください。

・「影のモードを維持する。」

チェックをつけると、〔光源－影の表示〕で影を表示している場合、回転、移動等で視点を変更（再描画）しても影が表示されたままとなります。

再度〔光源－影の表示〕をクリックすると、影が非表示になります。

チェックがOFFの場合は、〔光源－影の表示〕で影を表示していても、視点を変更（再描画）すると、影が非表示になります。

・「影表示以外でも輪郭のギザギザをなくす。」

チェックをつけると、パース図の輪郭線のギザギザ表示が目立たなくなります。

〔光源－影の表示〕がONの場合、パース図の表示を滑らかにする処理が自動でかかります。

〔光源－影の表示〕がOFFの場合でも同じ処理がかかり、表示が滑らかになります。

・「模様の拡大・縮小をなめらかにする。」

チェックをつけると、パース図で目地等の模様が回転、移動等で視点を変更（再描画）した際にちらちらするのを防ぎます。

目地等の模様を斜めから確認すると、遠くほど模様が小さくなりますが、チェックをつけることで、描画処理がスムーズになります。

『画質設定』

スクロール矢印をクリックするか、スクロールボックスをドラッグしてパース図の画質を設定します。

・「速度優先」

速度を優先すると、パース図の画質を落としてでも操作が高速化されます。

※ 速度が遅いパソコン向けです。

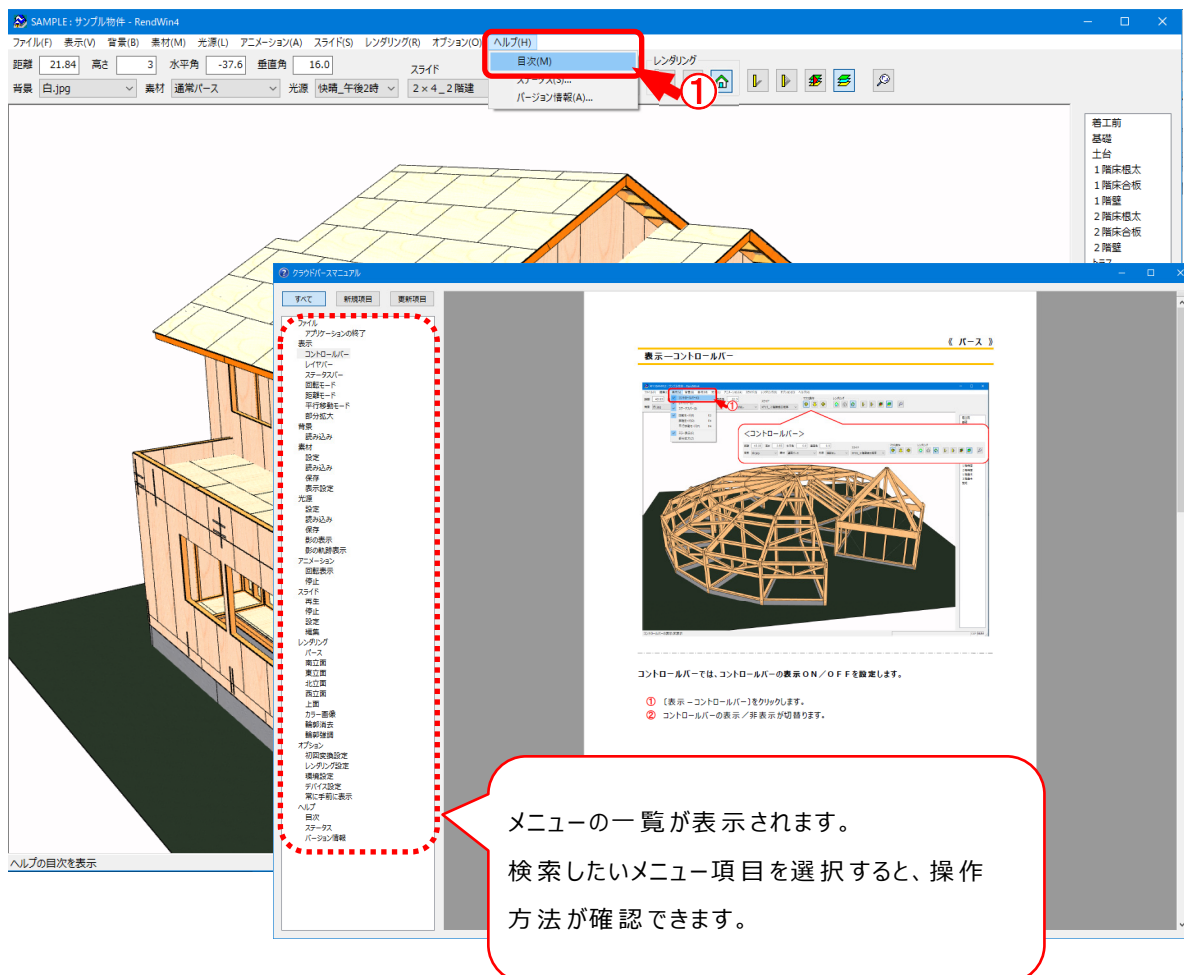
・「画質優先」

画質を優先すると、操作の処理速度を気にせずに最高画質でパース図が表示されます。

※ 速度が速いパソコン向けです。

3. クラウドパースチェッカー起動 《Ⅱ. パース図》／操作マニュアル

◆ 構造パースから操作マニュアルを参照します。



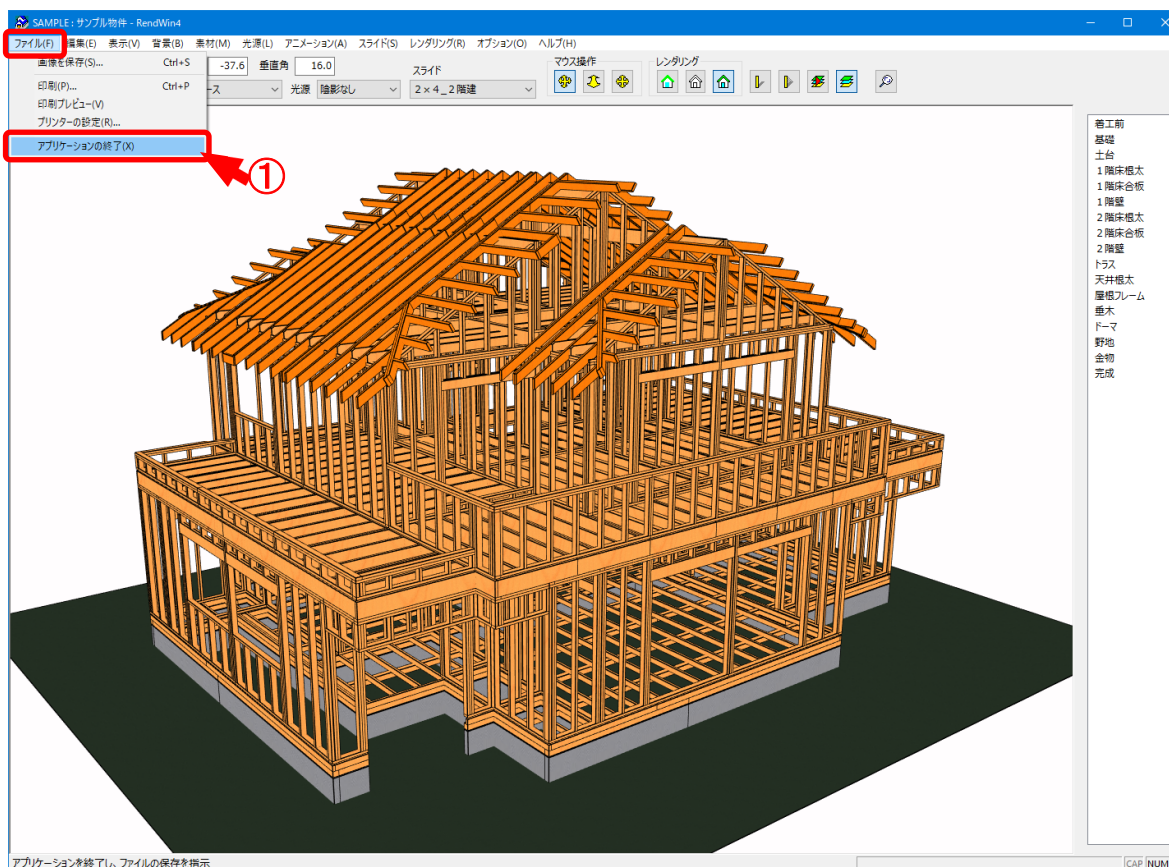
- ① [ヘルプー目次]を選択するか、構造パースの操作中に「F 1」キーをクリックします。
- ② 構造パースの操作マニュアルが確認できます。



操作マニュアルを表示するには、「Adobe Acrobat」のインストールが必要です。

3. クラウドパースチェッカー起動／終了

◆ 構造パースを閉じ、クラウドパースチェッカーシステムを終了します。

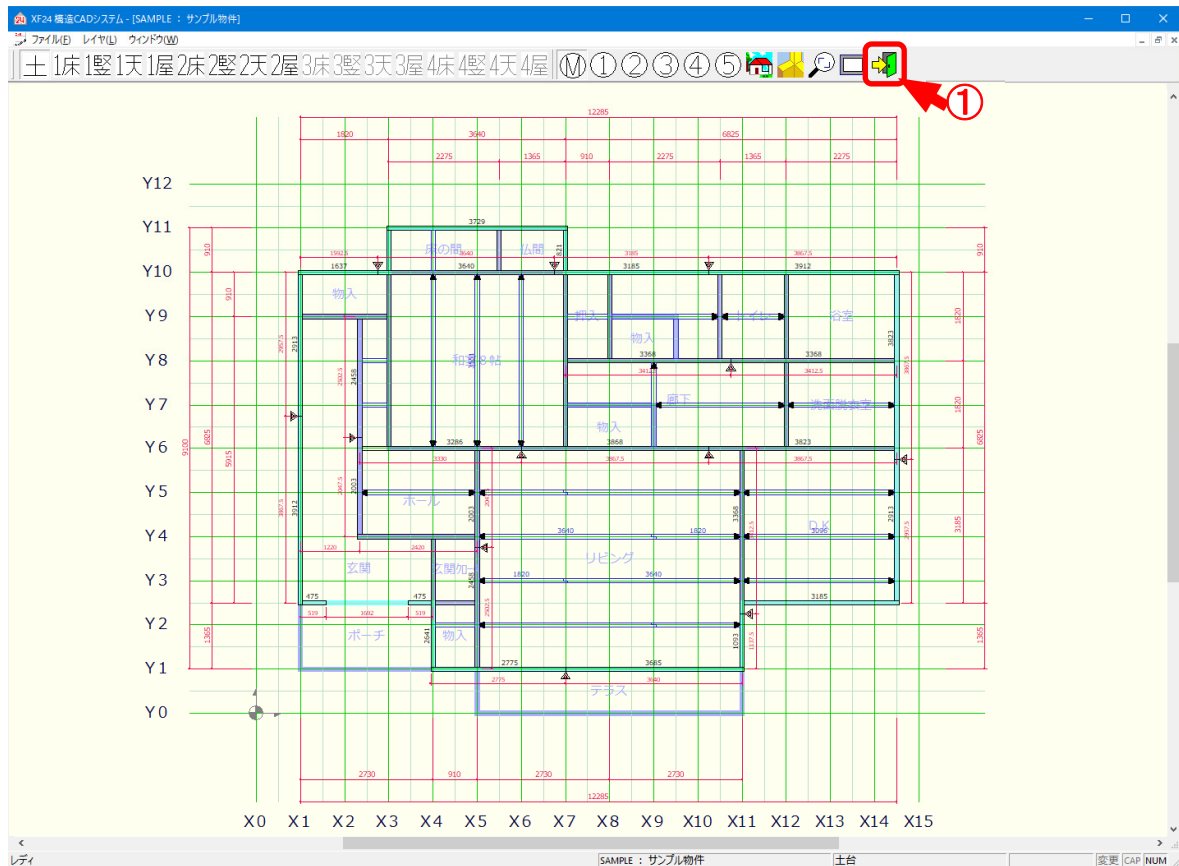



① 〔ファイル－アプリケーションの終了〕をクリックします。

② 構造パースが終了します。



3. クラウドパースチェッカー起動／終了



- ①  をクリックします。
- ② クラウドパースチェッカーが終了します。